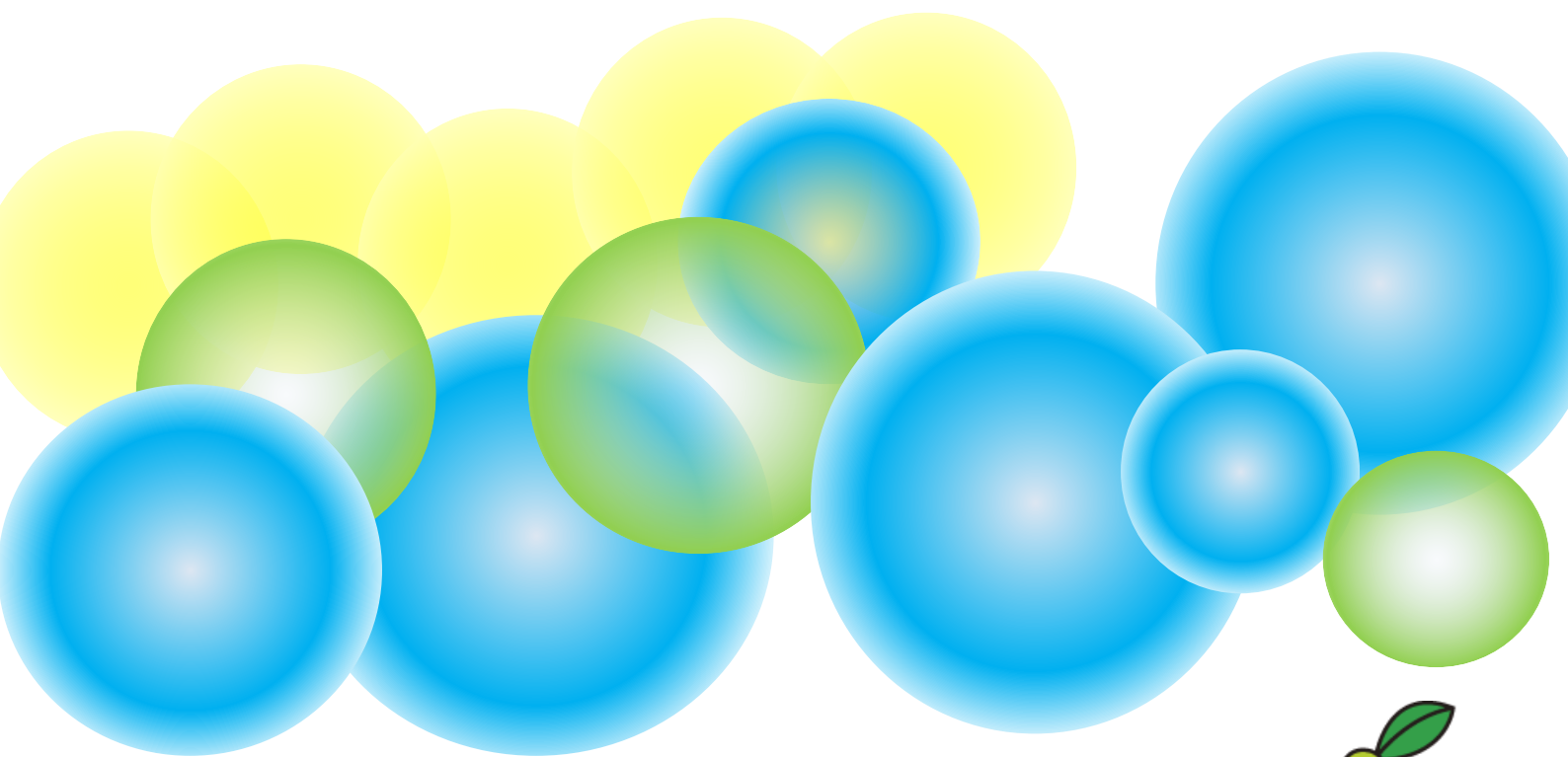


由良町人口ビジョン



白い岬と紺碧の海 自然が語るまち

由良町 和歌山県



目 次

I	由良町人口ビジョン全体構成	1
1	由良町人口ビジョンの位置づけ	1
2	由良町人口ビジョンの対象期間	1
3	人口の現状分析と将来展望	1
	①国・和歌山県の長期ビジョンについて	
II	由良町の人口の現状と変遷	5
1	由良町の人口の現状（平成 27 年(2015 年)4 月 1 日時点住民基本台帳）	5
	（1）全人口及び 3 区分人口	5
	①男女別全人口及び 3 区分人口	
	（2）人口ピラミッド	5
	①人口ピラミッド	
	（3）行政区ごとの人口の現状	6
	①行政区の人口	
	②行政区の 3 区分人口割合	
2	由良町の人口の推移	7
	（1）平成 17 年(2005 年)から平成 27 年(2015 年)の住民基本台帳における人口の推移	7
	①全人口及び 3 区分人口の推移	
	②高齢化の推移	
	③行政区人口の推移	
	④RESAS 地域経済分析システムによる和歌山県市町村の人口増減状況	
	（2）昭和 55 年(1980 年)から平成 22 年(2010 年)の国勢調査における人口の変遷	9
	①全人口及び 3 区分人口の推移	
	②高齢化の推移	
III	由良町の人口の分析	10
1	由良町の人口動向分析	10
	（1）移動に関する状況と分析	10
	①転入・転出の推移	
	②年齢別の社会増減	
	（2）出生に関する状況と分析	11
	①出生数と死亡数の推移	
	②合計特殊出生率と出生数の推移	
	（3）就労等に関する状況と分析	12
	①産業別 15 歳以上就業者（平成 22 年（2010 年）国勢調査）	
	②産業別就業者数の推移（国勢調査より）	
	③専兼別農業経営体数（農林業センサス）	
	④漁業経営体数（漁業センサス）	

- ⑤工業の事業所数及び従業員数（工業統計調査）
- ⑥観光客数（和歌山県観光客動態調査）
- ⑦常住地による人口・就業者数（平成 22 年（2010 年）国勢調査）

IV 由良町の人口の将来展望	15
1 将来展望における調査・分析	15
(1) 町民 1,600 人を対象に行ったアンケート調査・分析	15
①由良町住民の居住状況（経緯）	
②現在の仕事と勤務先	
③由良町の住みごころ	
④今後の居住意思	
⑤人口減少に対する考え	
⑥由良町が今後取り組むべきこと	
⑦安定した雇用を創出するため、町が力を入れるべきこと	
⑧町へ新しいひとの流れをつくるため、町が力を入れるべきこと	
⑨若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、町が力を入れるべきこと	
⑩くらしの安全・安心を守るため、町が力を入れるべきこと	
(2) 15 歳～19 歳の町民を対象に行ったアンケート調査・分析	23
(3) 転出者を対象に行ったアンケート調査・分析	23
(4) 3 種アンケート調査における自由記入の分析	24
①自由記入内の単語の使用頻度と主な内容（人口増減に関わりがあると思われるもの）	
2 国が提供するデータによる将来人口の推計	25
(1) パターン1（社人研推計準拠）	25
(2) パターン2（民間機関（創生会議）推計準拠）	25
(3) シミュレーション1	26
(4) シミュレーション2	26
3 人口の将来展望	27
(1) 将来展望の期間等	27
(2) 人口の将来を展望するに当たっての考察	27
①人口減少時代の到来	
②今後も人口減少は続く	
③人口減少問題に歯止めをかける	
(3) 将来展望の結果	27

I 由良町人口ビジョン全体構成

1 由良町人口ビジョンの位置づけ

由良町人口ビジョンは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び和歌山県の「長期人口ビジョン」の趣旨・内容を鑑み、由良町における人口の現状分析を行い、町民と由良町の人口の現状について共有し、今後目指すべき将来の方向及び展望を示すものです。つきましては、由良町人口ビジョンは、由良町総合戦略の成果を測る重要な指標となります。

2 由良町人口ビジョンの対象期間

由良町人口ビジョンの対象期間は、国が示す長期ビジョン及び和歌山県が示す長期人口ビジョンの期間と合わせることにし、平成72年（2060年）とします。また基礎数値として、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の人口推計等を用いていきます。

3 人口の現状分析と将来展望

由良町人口ビジョンの策定に当たっては、まず、由良町の総人口や年齢構成がどのように変化してきたか、その要因はどのようなものであったか等人口の現状を分析し、さらに、様々な仮定の下での将来人口推計を行い比較することで、人口に関する由良町の今後の課題を把握します。そして、今後予想される人口の変化が、由良町の将来にどのような影響を及ぼすかを分析・考察します。

次に人口の将来展望については、こうした人口の現状分析で把握した課題を踏まえつつ、地域住民の結婚・出産・子育てや、移住に関する意識・希望等を把握し、目指すべき将来の方向を提示し、自然増減（出生や死亡）や社会増減（転入や転出等）に関する見通しを立て、将来の人口を展望します。

なお、人口の将来展望を行う際には、出生及び移動に関する仮定を設定する必要があります。人口移動の状況は地域によって多様であり、移住の他、地元就職率の動向や進路希望状況など多面的な調査・分析を検討する必要があると考えられます。このように、地域の実情に応じた調査・分析を行い、人口の将来展望を見通します。

①国・和歌山県の長期ビジョンについて

【国の長期ビジョン】

長期ビジョン

人口問題に対する基本認識

「人口減少時代」の到来

今後の基本的視点

- 3つの基本的視点 ①「東京一極集中」の是正 ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現 ③地域の特性に即した地域課題の解決
- 国民の希望の実現に全力を注ぐことが重要

目指すべき将来の方向

将来にわたって「活力ある日本社会」を維持する

- 若い世代の希望が実現すると、出生率は1.8程度に向上する。
- 人口減少に歯止めがかかると、2060年に1億人程度の人口が確保される。
- 人口構造が「若返る時期」を迎える。
- 「人口の安定化」とともに「生産性の向上」が図られると、2050年代に実質GDP成長率は、1.5～2%程度に維持される。

地方創生がもたらす日本社会の姿

◎地方創生が目指す方向

- 自らの地域資源を活用した、多様な地域社会の形成を目指す。
- 外部との積極的なつながりにより、新たな視点から活性化を図る。
- 地方創生が実現すれば、地方が先行して若返る。
- 東京圏は、世界に開かれた「国際都市」への発展を目指す。

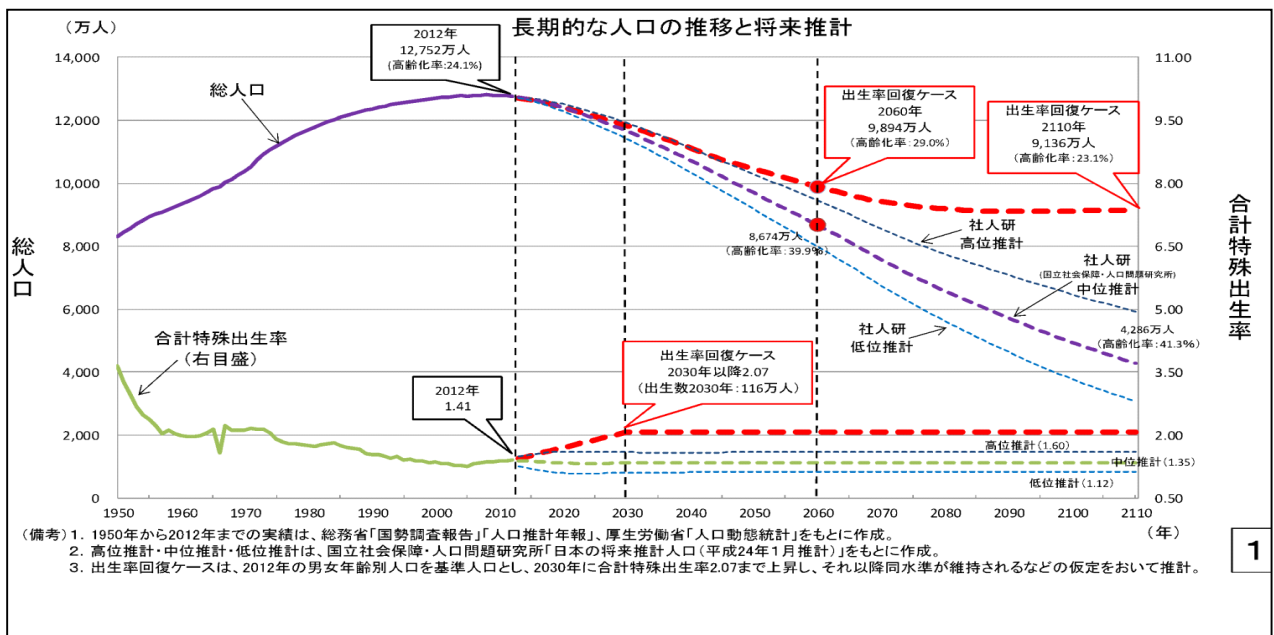
地方創生は、日本の創生であり、地方と東京圏がそれぞれの強みを活かし、日本全体を引っ張っていく

※まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局)

【我が国の人口の推移と長期的な見通し】

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」「出生中位(死亡中位)」によると、平成72年(2060年)の総人口は約8,700万人まで減少すると推計されています。

仮に、合計特殊出生率が平成42年(2030年)に2.07程度まで上昇すると、平成72年(2060年)の人口は約1億人となり、以降長期的には9,000万人程度で安定的に推移するものと推計されています。



※「人口動態について(中長期、マクロ的観点からの分析③)」(平成26年2月14日 内閣府)

【和歌山県の長期人口ビジョン】

和歌山県長期人口ビジョンの概要

●長期人口ビジョンとは？

本県における人口の現状と、人口減少がもたらす影響に関する認識を県民と共有するとともに、めざすべき将来の方向を提示したもの

人口の現状

●本県の人口は…

- ・1985年（約108万7千人）以降減少
- ・2015年現在、約96万6千人
- ・65歳以上の人口が27%超

●人口動態は…

◆自然増減について

- ・1995年を境に死亡数が出生数を上回り、自然減の状態が続く
- ・合計特殊出生率は回復傾向（2005年：1.32→2014年：1.55）

◆社会増減について

- ・一貫して社会減の状態
- ・県外に進学先や職を求める若年層の転出が顕著
- ・大都市圏への転出が顕著

人口の展望とめざす将来の方向

●このまま何も対策を講じなければ…

- ・2040年に約70万人程度、2060年には50万人程度まで激減
- ・2060年には65歳以上の人口が42%まで増加
- ・高齢者1人を概ね現役世代1人で支える人口形態になる

●和歌山県のあるべき将来人口

「高齢者1人を現役世代2人で支える人口形態」を達成するため、2060年に人口70万人を確保する

◆そのためには…

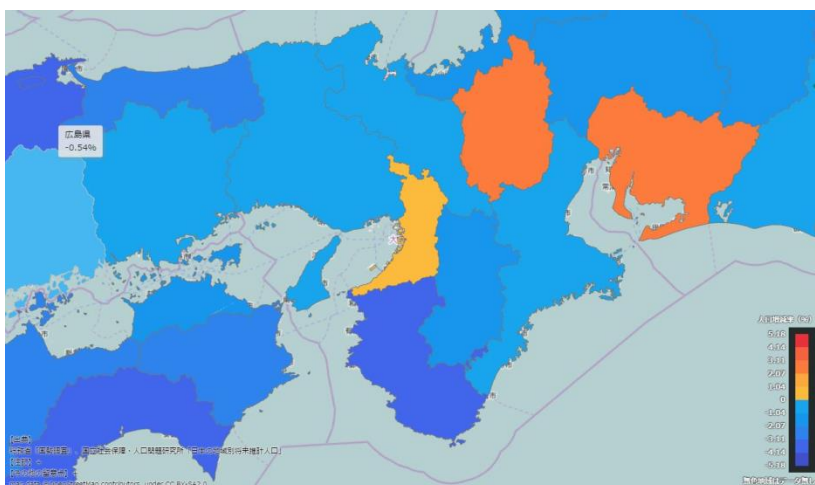
- ・産業政策やインフラ等の条件整備を行って働く場を増やすとともに、和歌山の暮らしやすさや和歌山企業存在をアピールすることで、一定の転出を見込みつつも、転入者を増やし社会減を抑制する
- ・今以上に子育て環境を良くすることによって、出生率を高め、新しく生まれてくる人を増やすことで、自然減を減らす
- ・これらの状態が継続できるように政策的努力を続けていく

※和歌山県ホームページ

【和歌山県の人口の推移と将来人口推計】

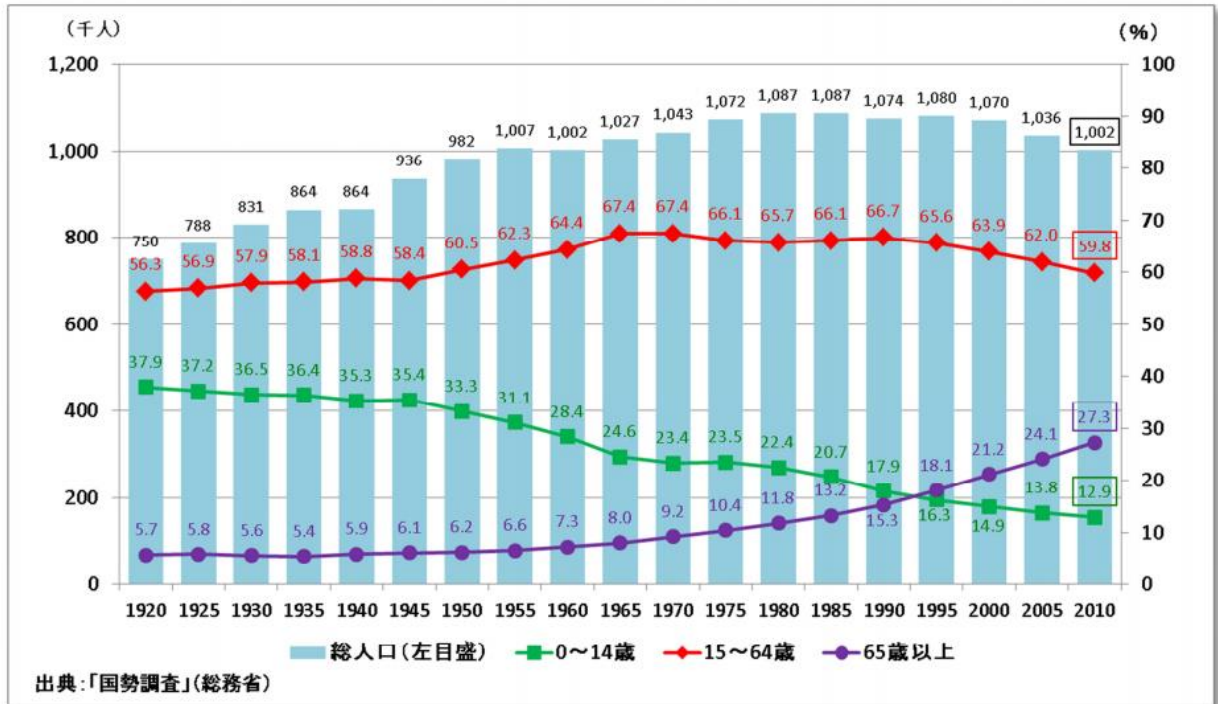
和歌山県の人口は、昭和60年（1985年）の約108万7千人をピークに減少に転じ、平成7年（1995年）には、経済対策に伴う公共投資の増加や阪神淡路大震災の影響等による一時的な転入超過があったものの、その後は減少が続いています。直近の県推計人口（平成27年（2015年）4月1日）は約96万6千人で、戦後間もない頃の人口と同程度にまで減少しています。

なお、和歌山県の人口減少率は、隣接する他県よりも、高くなっています。



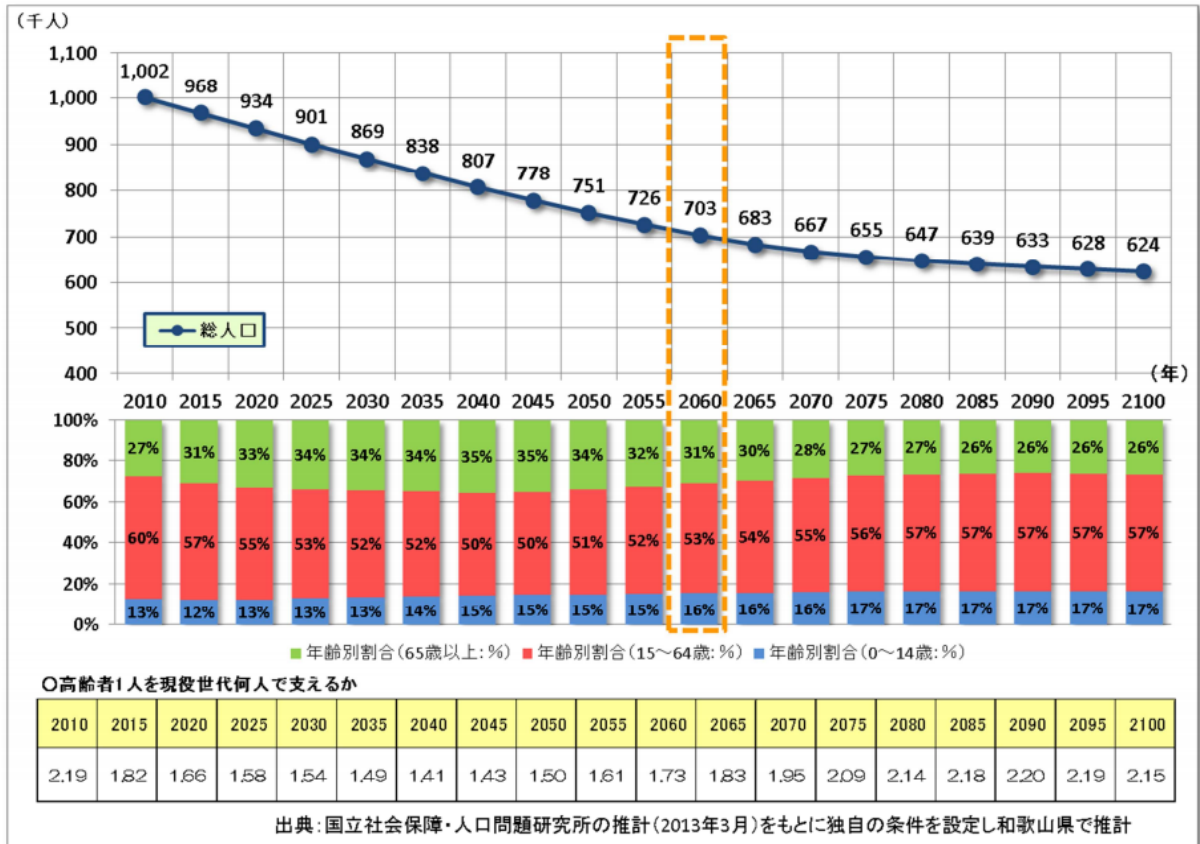
※RESAS（リーサス）地域経済分析システム

○グラフ1（和歌山県総人口の推移）



※「和歌山県長期人口ビジョン」(平成27年(2015年)6月 和歌山県)

○グラフ10(将来人口推計)



※「和歌山県長期人口ビジョン」(平成27年(2015年)6月 和歌山県)

Ⅱ 由良町の人口の現状と変遷

1 由良町の人口の現状（平成 27 年(2015 年)4 月 1 日時点住民基本台帳）

(1) 全人口及び3区分人口

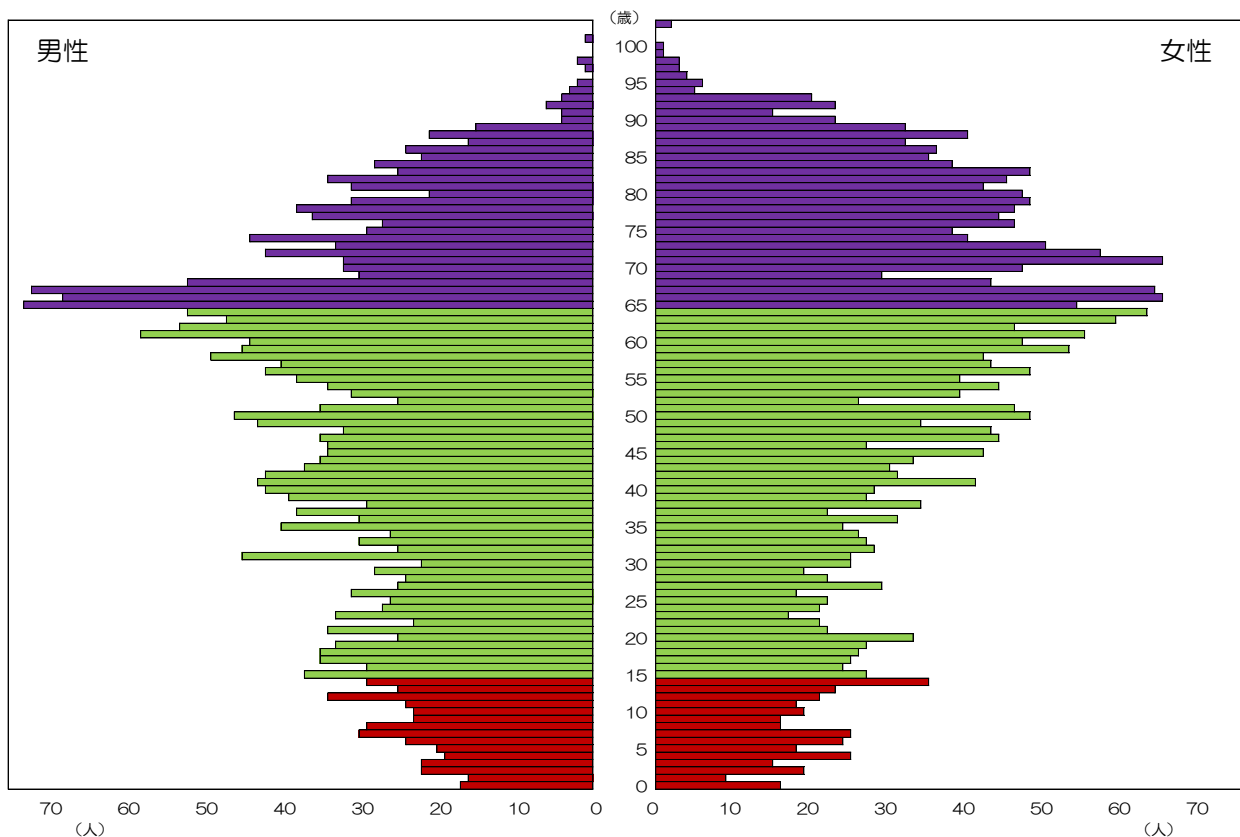
平成 27 年(2015 年)4 月 1 日時点の住民基本台帳による由良町の人口は、6,254 人です。
 老年人口は、2,140 人でやや女性が多く、高齢化率は 34.2%と高くなっています。

①男女別全人口及び3区分人口

区 分	単位	合計	男性	女性
老年人口 (65歳以上)	人	2,140	903	1,237
	%	34.2%	29.7%	38.5%
生産年齢人口 (15~64歳)	人	3,458	1,785	1,673
	%	55.3%	58.6%	52.1%
年少人口 (15歳未満)	人	656	357	299
	%	10.5%	11.7%	9.3%
全人口	人	6,254	3,045	3,209

(2) 人口ピラミッド

①人口ピラミッド



団塊の世代と呼ばれる 65 歳前後の人口が、男女ともに突出して多く、人口ピラミッドは、概ね「ひし形」を呈しています。

65 歳より年齢が若くなるにつれ人口は少なくなり、直近の数年においては、男女共に 20 人を下回っています。

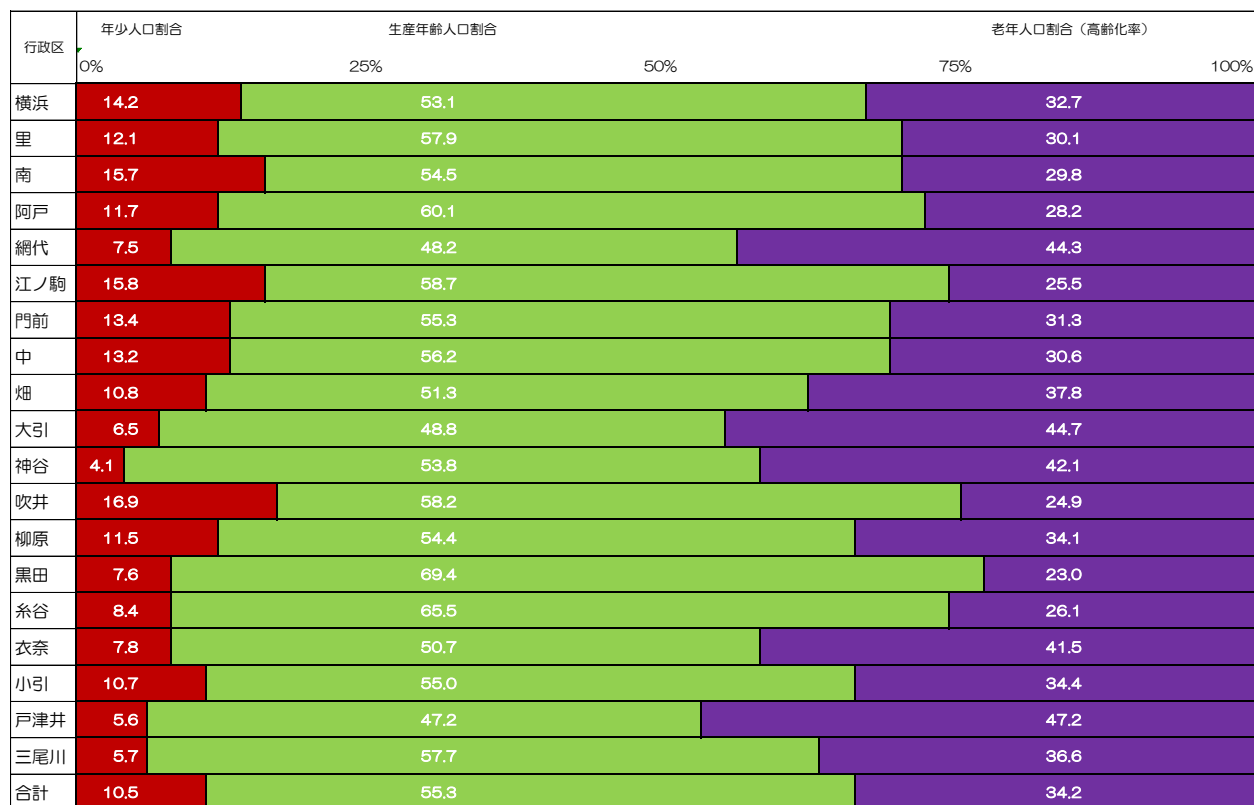
(3) 行政区ごとの人口の現状

①行政区の人口

単位：人、行政区数：19

行政区	総合計		男子計	女子計	年少（15歳未満）			生産年齢（15～64歳）			老年（65歳以上）		
	人数	割合			合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
横浜	571	9.1%	267	304	81	38	43	303	152	151	187	77	110
里	489	7.8%	249	240	59	34	25	283	157	126	147	58	89
南	178	2.8%	86	92	28	21	7	97	44	53	53	21	32
阿戸	489	7.8%	252	237	57	34	23	294	160	134	138	58	80
網代	332	5.3%	155	177	25	12	13	160	87	73	147	56	91
江ノ駒	298	4.8%	149	149	47	24	23	175	94	81	76	31	45
門前	441	7.1%	202	239	59	31	28	244	114	130	138	57	81
中	121	1.9%	64	57	16	11	5	68	33	35	37	20	17
畑	415	6.6%	192	223	45	19	26	213	102	111	157	71	86
大引	416	6.7%	192	224	27	15	12	203	99	104	186	78	108
神谷	290	4.6%	142	148	12	5	7	156	82	74	122	55	67
吹井	189	3.0%	99	90	32	17	15	110	58	52	47	24	23
柳原	384	6.1%	180	204	44	24	20	209	107	102	131	49	82
黒田	408	6.5%	207	201	31	12	19	283	153	130	94	42	52
糸谷	119	1.9%	72	47	10	8	2	78	53	25	31	11	20
衣奈	631	10.1%	303	328	49	30	19	320	157	163	262	116	146
小引	131	2.1%	61	70	14	7	7	72	36	36	45	18	27
戸津井	125	2.0%	62	63	7	6	1	59	31	28	59	25	34
三尾川	227	3.6%	111	116	13	9	4	131	66	65	83	36	47
合計	6,254	100.0%	3,045	3,209	656	357	299	3,458	1,785	1,673	2,140	903	1,237

②行政区の3区分人口割合



最も高齢化率が高い行政区は“戸津井：47.2%”で、他に“大引：44.7%”、“網代：44.3%”、“神谷：42.1%”、“衣奈：41.5%”の計5行政区が40%を超えています。

2 由良町の人口の推移

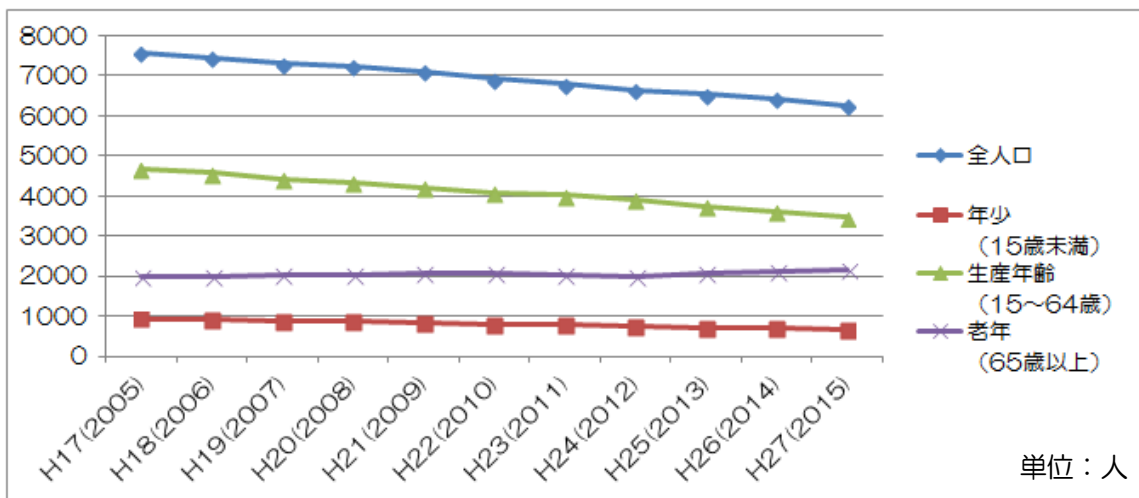
(1) 平成 17 年(2005 年)から平成 27 年(2015 年)の住民基本台帳における人口の推移

(※各年 3 月末時点)

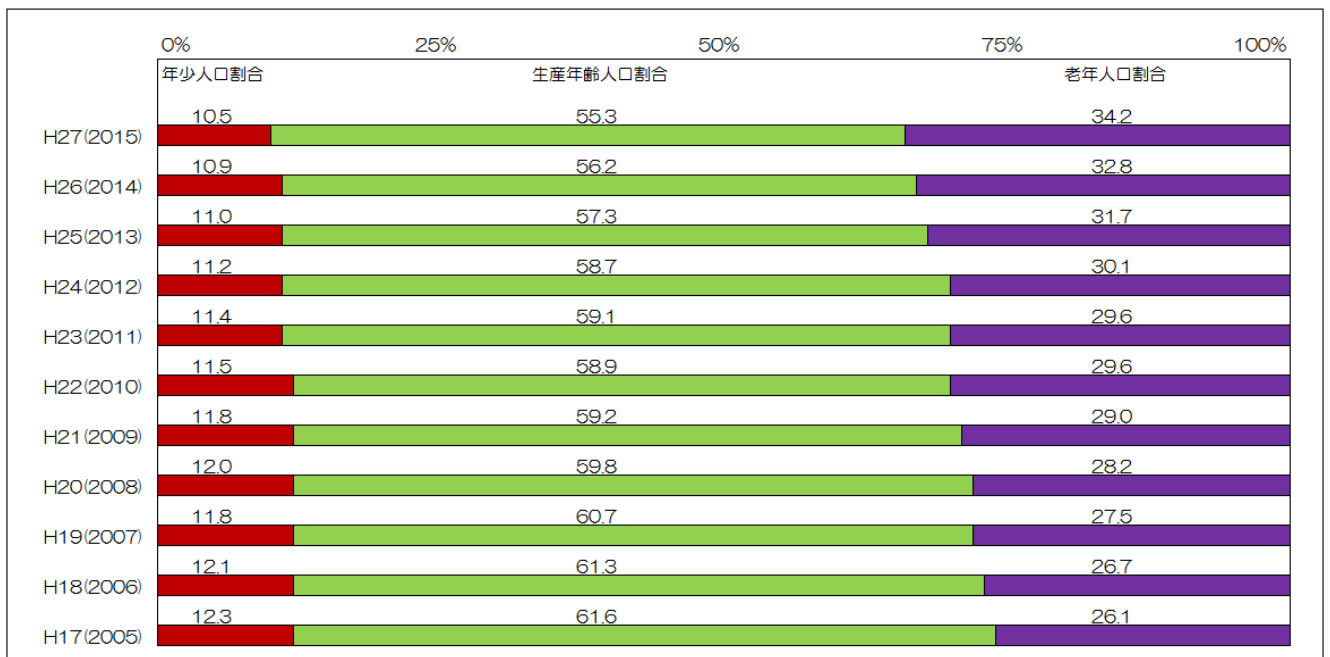
①全人口及び 3 区分人口の推移

単位：人

区分	平成17年 2005年	平成18年 2006年	平成19年 2007年	平成20年 2008年	平成21年 2009年	平成22年 2010年	平成23年 2011年	平成24年 2012年	平成25年 2013年	平成26年 2014年	平成27年 2015年
全人口	7,566	7,449	7,305	7,234	7,102	6,921	6,788	6,640	6,526	6,433	6,254
年少(15歳未満)	934	898	863	865	838	797	771	742	716	704	656
生産年齢(15~64歳)	4,660	4,564	4,433	4,328	4,202	4,074	4,010	3,899	3,738	3,618	3,458
老年(65歳以上)	1,972	1,987	2,009	2,041	2,062	2,050	2,007	1,999	2,072	2,111	2,140



②高齢化の推移



平成 17 年(2005 年)以降、一貫して、由良町の人口は減少を、高齢化率は、上昇を続けています。

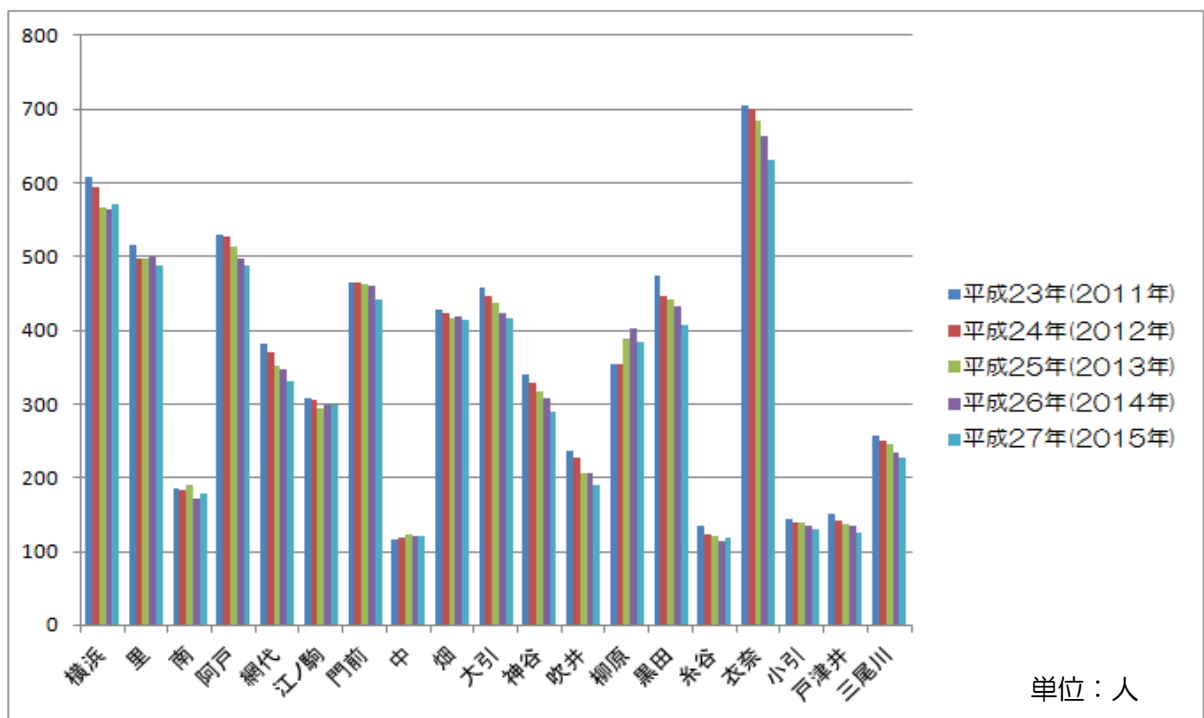
③行政区人口の推移

ほとんどの行政区において、人口減少が続いていますが、柳原地区及び中地区は異なる変動を呈しています。

柳原：平成23年(2011年)354人
 →平成27年(2015年)384人
 中：平成23年(2011年)117人
 →平成25年(2013年)123人
 →平成27年(2015年)121人

行政区	平成23年 2011年	平成24年 2012年	平成25年 2013年	平成26年 2014年	平成27年 2015年
横浜	607	595	566	564	571
里	516	497	496	500	489
南	186	182	189	172	178
阿戸	530	528	513	498	489
網代	382	370	352	347	332
江ノ駒	307	306	293	299	298
門前	464	464	462	460	441
中	117	118	123	121	121
畑	429	424	417	419	415
大引	458	446	436	423	416
神谷	339	328	317	308	290
吹井	236	227	207	206	189
柳原	354	353	388	403	384
黒田	473	446	441	432	408
糸谷	135	123	120	115	119
衣奈	705	701	684	664	631
小引	143	140	140	134	131
戸津井	151	142	137	135	125
三尾川	256	250	245	233	227

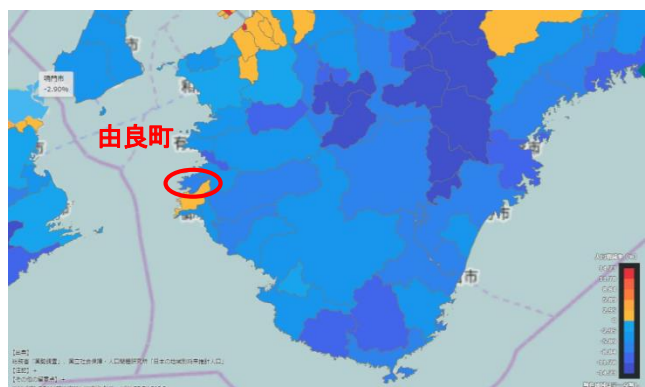
単位：人



単位：人

④RESAS 地域経済分析システムによる
和歌山県内の市町村の人口増減状況

和歌山県内の市町村のほとんどが、由良町と同様に人口減少にありますが、南側で隣接する日高町は、増加しています。

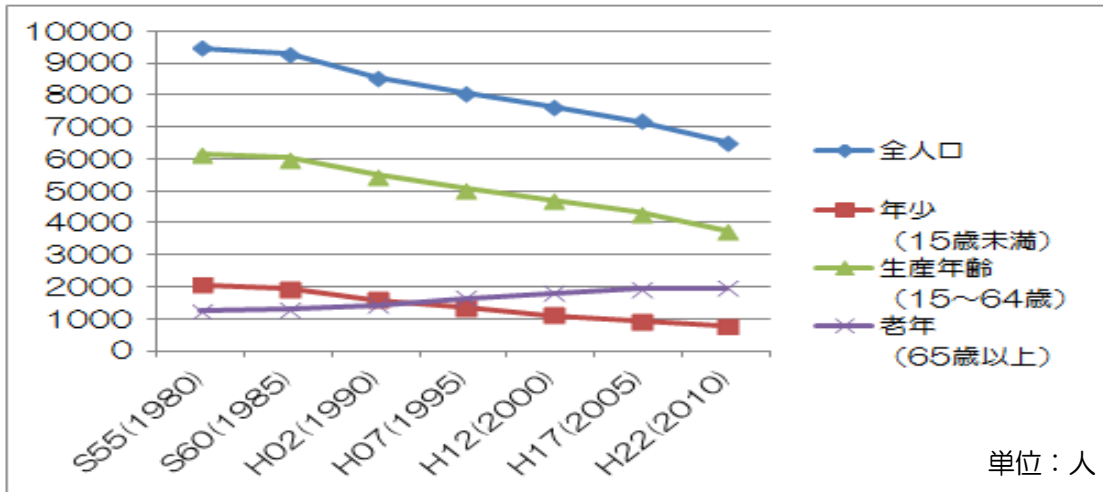


(2) 昭和 55 年(1980 年)から平成 22 年(2010 年)の国勢調査における人口の変遷

①全人口及び 3 区分人口の推移

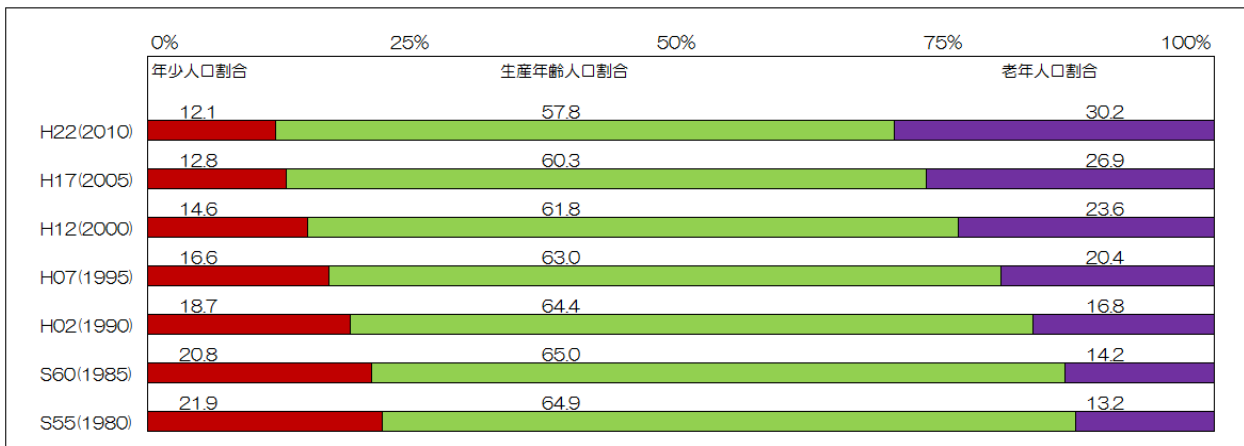
区 分	S55年 1980年	S60年 1985年	H02年 1990年	H07年 1995年	H12年 2000年	H17年 2005年	H22年 2010年
全人口	9,468	9,273	8,529	8,056	7,625	7,179	6,508
年少(15歳未満)	2,069	1,931	1,599	1,340	1,114	919	785
生産年齢(15~64歳)	6,146	6,027	5,496	5,072	4,712	4,331	3,758
老年(65歳以上)	1,253	1,315	1,434	1,644	1,799	1,928	1,964

単位：人

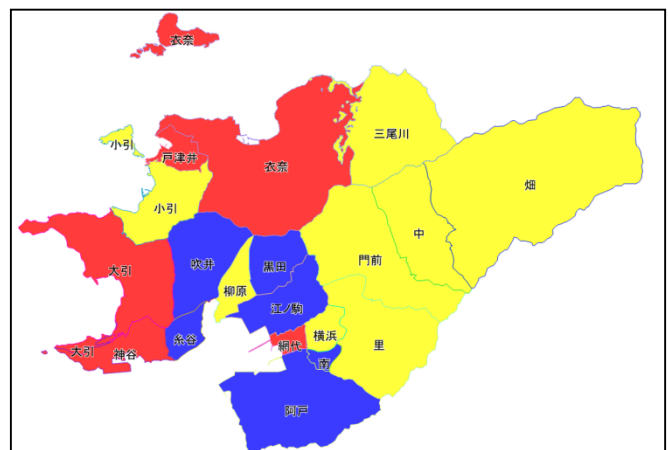


単位：人

②高齢化の推移



国勢調査を遡ると、昭和 30 年(1955 年)に 10,355 人をピークに減少に転じ、高度経済成長期に一時的に人口増加があったものの、昭和 55 年(1980 年)以降は減少が続いています。



Ⅲ 由良町の人口の分析

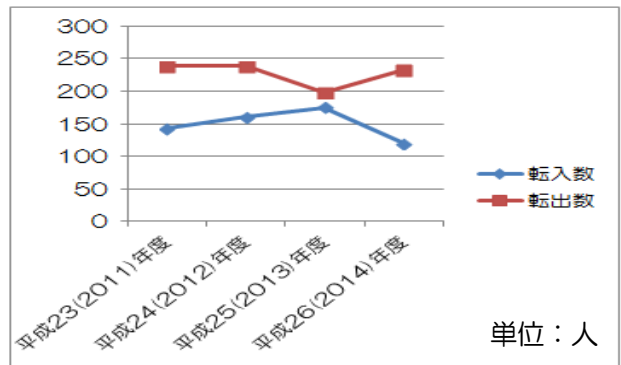
1 由良町の人口動向分析

(1) 移動に関する状況と分析

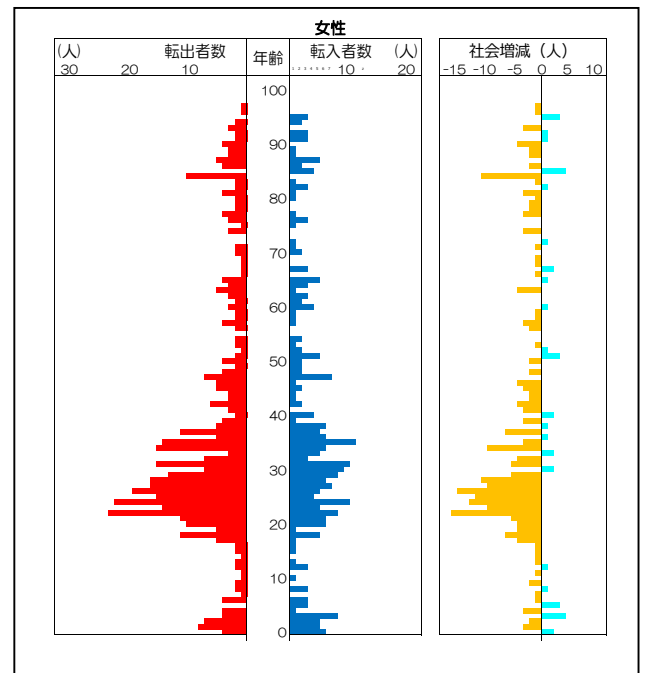
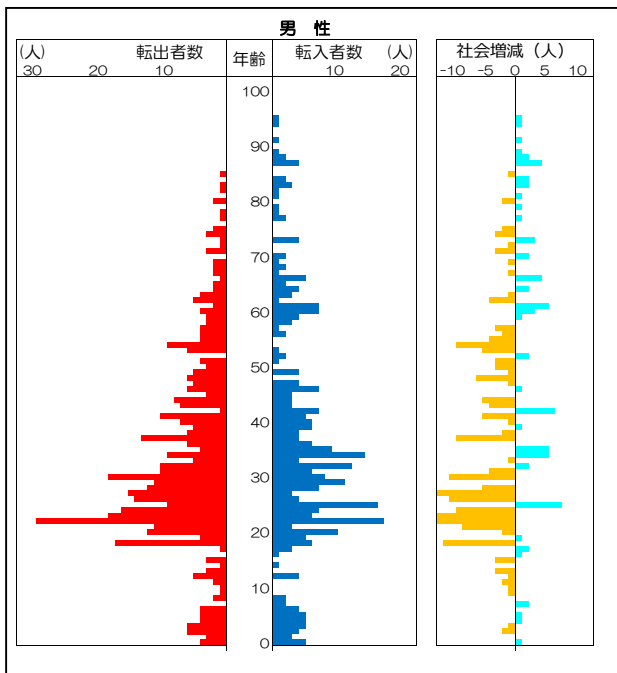
① 転入・転出の推移

平成 23 年度から平成 26 年度における社会増減は、人数の増減はありますが、一貫して転出超過にあります。

区分 (人)	平成23年度 2011年度	平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度	
転入者	男性	81	82	96	69
	女性	62	79	79	51
	合計	143	161	175	120
転出者	男性	107	120	101	117
	女性	132	119	98	117
	合計	239	239	199	234
社会増減	-96	-78	-24	-114	



② 年齢別の社会増減



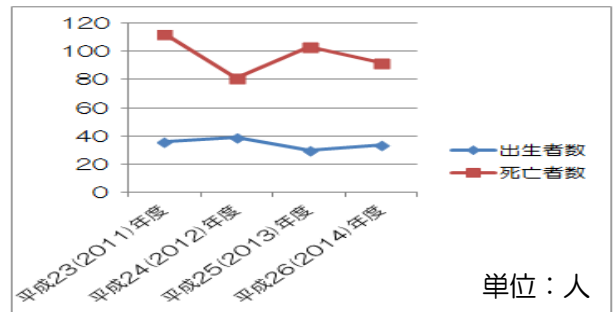
平成 23 年度から平成 26 年度までの 4 年間における転入者・転出者を、年齢毎に合算して図化したものです。20 歳代での転入・転出が多く、また、転出超過が顕著であることがわかります。

(2) 出生に関する状況と分析

① 出生数と死亡数の推移

平成23年度から平成26年度における自然増減は、社会増減と同様、人数の増減はありますが、一貫して減少にあります。

区分	平成23年度 2011年度	平成24年度 2012年度	平成25年度 2013年度	平成26年度 2014年度
出生数(人)	36	39	30	34
死亡数(人)	112	81	103	92
自然増減	-76	-42	-73	-58

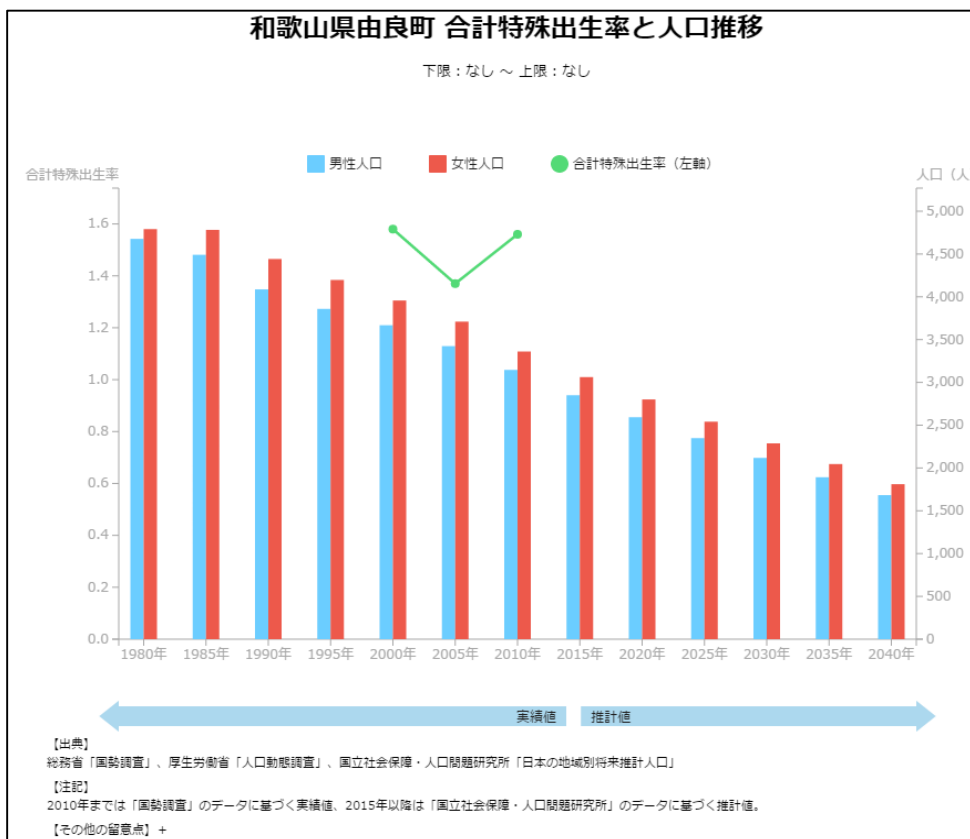


② 合計特殊出生率と出生数の推移

厚生労働省の統計資料では、平成15年から平成19年の期間は、1.37と減少しましたが、その後回復しています。

	H10 - H14 1998-2002	H15 - H19 2003-2007	H20 - H24 2008-2012
合計特殊出生率	1.58	1.37	1.56

RESAS 地域経済分析システムを用いた合計特殊出生率と人口の推移では、年々減少傾向にあり、人口減少を抑制するには、さらなる努力が必要です。



(3) 就労等に関する状況と分析

①産業別 15歳以上就業者 (平成22年(2010年)国勢調査)

単位：人

		総数	A 農業、林業	うち農業	B 漁業	C 鉱業、採石業、砂利採取業	D 建設業	E 製造業	F 電気・ガス・熱供給・水道業
和歌山県	総数	450,969	39,347	38,050	2,576	43	34,416	63,357	2,959
			8.7%	8.4%	0.6%	0.0%	7.6%	14.0%	0.7%
	男	253,134	22,028	20,876	2,245	38	29,649	43,869	2,707
			8.7%	8.2%	0.9%	0.0%	11.7%	17.3%	1.1%
	女	197,835	17,319	17,174	331	5	4,767	19,488	252
			8.8%	8.7%	0.2%	0.0%	2.4%	9.9%	0.1%
由良町	総数	2,937	358	357	101	-	248	493	13
			12.2%	12.2%	3.4%	-	8.4%	16.8%	0.4%
	男	1,700	194	193	93	-	209	382	11
			11.4%	11.4%	5.5%	-	12.3%	22.5%	0.6%
	女	1,237	164	164	8	-	39	111	2
			13.3%	13.3%	0.6%	-	3.2%	9.0%	0.2%

		G 情報通信業	H 運輸業、郵便業	I 卸売業、小売業	J 金融業、保険業	K 不動産業、物品賃貸業	L 学術研究、専門・技術サービス業	M 宿泊業、飲食サービス業	N 生活関連サービス業、娯楽業
和歌山県	総数	4,438	22,017	73,799	10,352	5,119	9,631	25,571	16,263
		1.0%	4.9%	16.4%	2.3%	1.1%	2.1%	5.7%	3.6%
	男	3,157	18,723	35,739	4,510	3,194	6,547	9,495	7,004
		1.2%	7.4%	14.1%	1.8%	1.3%	2.6%	3.8%	2.8%
	女	1,281	3,294	38,060	5,842	1,925	3,084	16,076	9,259
		0.6%	1.7%	19.2%	3.0%	1.0%	1.6%	8.1%	4.7%
由良町	総数	15	110	408	50	12	25	145	102
		0.5%	3.7%	13.9%	1.7%	0.4%	0.9%	4.9%	3.5%
	男	6	95	188	20	6	20	49	50
		0.4%	5.6%	11.1%	1.2%	0.4%	1.2%	2.9%	2.9%
	女	9	15	220	30	6	5	96	52
		0.7%	1.2%	17.8%	2.4%	0.5%	0.4%	7.8%	4.2%

		O 教育、学習支援業	P 医療、福祉	Q 複合サービス事業	R サービス業 (他に分類されないもの)	S 公務 (他に分類されるものを除く)	T 分類不能の産業
和歌山県	総数	21,703	57,867	4,918	23,616	19,297	13,680
		4.8%	12.8%	1.1%	5.2%	4.3%	3.0%
	男	9,400	14,540	2,916	15,664	14,280	7,429
		3.7%	5.7%	1.2%	6.2%	5.6%	2.9%
	女	12,303	43,327	2,002	7,952	5,017	6,251
		6.2%	21.9%	1.0%	4.0%	2.5%	3.2%
由良町	総数	127	388	58	140	130	14
		4.3%	13.2%	2.0%	4.8%	4.4%	0.5%
	男	59	86	37	92	96	7
		3.5%	5.1%	2.2%	5.4%	5.6%	0.4%
	女	68	302	21	48	34	7
		5.5%	24.4%	1.7%	3.9%	2.7%	0.6%

和歌山県と比べ、農業、製造業の従事比率がやや高くなっています。

②産業別就業者数の推移 (国勢調査より)

単位：人

年次 産業別	昭和55年 1980年	昭和60年 1985年	平成2年 1990年	平成7年 1995年	平成12年 2000年	平成17年 2005年	平成22年 2010年
第一次産業	1,000	992	783	756	640	598	459
第二次産業	1,505	1,384	1,251	1,145	972	860	741
第三次産業	1,745	1,866	1,833	1,859	1,868	1,985	1,723
分類不能	4	5	1	2	2	4	14
総数	4,254	4,247	3,868	3,762	3,482	3,447	2,937

第一次産業、第二次産業の従事者は減少が続いています。第三次産業は、増減はありますが、概ね人数を維持しており、産業別就業者割合は、第三次産業に移行しつつあります。

③専業別農業経営体数（農林業センサス）

単位：戸

区分	農家総数	専業農家	兼業農家			備考
			計	第1種	第2種	
昭和55年（1980）	689	118	571	106	465	
昭和60年（1985）	614	94	520	74	446	
平成2年（1990）	497	89	408	55	353	
平成7年（1995）	444	105	339	69	270	
平成12年（2000）	284	68	216	51	165	販売農家
平成17年（2005）	247	76	171	48	123	
平成22年（2010）	223	85	138	42	96	販売農家

※第1種……農業が収入の主 第2種……農業が収入の従

専業・兼業ともに減少が続いていますが、特に兼業農家が著しく減少しています。

④漁業経営体数（漁業センサス）

単位：戸、件

区分	総数	漁船非使用	動力漁船使用	小型定置網	地びき網	海面養殖				
						のり養殖	わかめ養殖	はまち養殖	たい養殖	その他
昭和58年（1983）	290	0	263	15	3	1	5	3	0	0
昭和63年（1988）	288	0	263	14	3	2	2	3	1	0
平成5年（1993）	267	0	243	16	1	0	2	3	1	1
平成10年（1998）	235	1	215	13	1	0	2	1	1	1
平成15年（2003）	183	1	168	10	0	0	1	1	1	1
平成20年（2008）	133	0	117	11	0	0	4	1	0	0
平成25年（2013）	104	1	87	10	0	0	6	0	0	0

動力漁船使用の経営体の減少が近年、加速度を増して減少しています。平成25年（2013年）には、100戸を下回りました。

⑤工業の事業所数及び従業員数（工業統計調査）

年次	事業所数 （ヶ所）	従業員数 （人）	製造品出荷額 （百万円）
平成5年(1993)	26	717	21,367
平成6年(1994)	22	712	18,747
平成7年(1995)	24	686	22,170
平成8年(1996)	24	661	21,710
平成9年(1997)	25	651	22,062
平成10年(1998)	27	606	16,867
平成14年(2002)	19	483	18,256
平成15年(2003)	17	461	15,068
平成16年(2004)	14	449	15,192
平成17年(2005)	13	441	18,483
平成18年(2006)	12	457	15,843
平成19年(2007)	14	521	17,125
平成20年(2008)※	16	602	19,269
平成21年(2009)	15	610	23,022
平成22年(2010)	15	552	22,787
平成23年(2011)	17	585	22,305
平成24年(2012)	17	544	15,750

製造品出荷額は、景気の変動を受けながらも、一定の水準を維持しています。

※従業員4名以上の事業所を対象とした調査（平成20年度のみ全事業所対象）

⑥観光客数（和歌山県観光客動態調査）

年度	観光客数（人）			変化率（％）		
	宿泊者数	日帰り客	総計	宿泊者数	日帰り客	総計
平成13年(2001)	44,045	424,138	468,183	100.0	100.0	100.0
平成14年(2002)	33,034	347,793	380,827	75.0	82.0	81.3
平成15年(2003)	29,615	335,330	364,945	89.7	96.4	95.8
平成16年(2004)	21,208	281,282	302,490	71.6	83.9	82.9
平成17年(2005)	32,160	278,290	310,450	151.6	98.9	102.6
平成18年(2006)	30,310	300,160	330,470	94.2	107.9	106.4
平成19年(2007)	35,870	339,340	375,210	118.3	113.1	113.5
平成20年(2008)	28,528	360,776	389,304	79.5	106.3	103.8
平成21年(2009)	27,730	354,430	382,160	97.2	98.2	98.2
平成22年(2010)	27,981	375,073	403,054	100.9	105.8	105.5
平成23年(2011)	23,422	215,950	239,372	83.7	57.6	59.4
平成24年(2012)	23,239	242,323	265,562	99.2	112.2	110.9
平成25年(2013)	20,394	199,967	220,361	87.8	82.5	83.0
平成26年(2014)※	27,312	204,212	231,524	133.9	102.1	105.1

※平成27年（2015年）5月時点速報値）

宿泊者数が一時的に増えた年度がありますが、観光客総数は、年々減少する傾向にあります。

⑦常住地による人口・就業者数（平成22年（2010年）国勢調査）

【人口】

単位：人

		総数（夜間人口） ¹⁾	従業も通学もしていない	自宅で従業	自宅外の自市区町村で従業・通学 ²⁾	他市区町村で従業・通学	自市内他区で従業・通学	県内他市区町村で従業・通学	他県で従業・通学	（従業地・通学地）不詳
和歌山県	総数	1,002,198	394,628 39.4%	77,581 7.7%	344,344 34.4%	150,535 15.0%	-	106,518 10.6%	36,943 3.7%	35,110 3.5%
	男	471,397	137,368 29.1%	43,677 9.3%	178,123 37.8%	93,745 19.9%	-	63,752 13.5%	25,694 5.5%	18,484 3.9%
	女	530,801	257,260 48.5%	33,904 6.4%	166,221 31.3%	56,790 10.7%	-	42,766 8.1%	11,249 2.1%	16,626 3.1%
由良町	総数	6,508	2,787 42.8%	725 11.1%	1,526 23.4%	1,439 22.1%	-	1,374 21.1%	37 0.6%	31 0.5%
	男	3,147	1,022 32.5%	437 13.9%	883 28.1%	789 25.1%	-	747 23.7%	26 0.8%	16 0.5%
	女	3,361	1,765 52.5%	288 8.6%	643 19.1%	650 19.3%	-	627 18.7%	11 0.3%	15 0.4%

1) 労働力状態「不詳」を含む。

2) 従業地・通学地「不詳」を含む。

【就業者数】

単位：人

		総数	自宅で従業	自宅外の自市区町村で従業	他市区町村で従業 ²⁾	自市内他区で従業	県内他市区町村で従業	他県で従業	（従業地）不詳
和歌山県	総数	450,969	77,581 17.2%	243,204 53.9%	127,421 28.3%	-	92,012 20.4%	29,559 6.6%	2,763 0.6%
	男	253,134	43,677 17.3%	126,046 49.8%	81,627 32.2%	-	56,173 22.2%	21,820 8.6%	1,784 0.7%
	女	197,835	33,904 17.1%	117,158 59.2%	45,794 23.1%	-	35,839 18.1%	7,739 3.9%	979 0.5%
由良町	総数	2,937	725 24.7%	1,027 35.0%	1,185 40.3%	-	1,148 39.1%	16 0.5%	-
	男	1,700	437 25.7%	596 35.1%	667 39.2%	-	638 37.5%	16 0.9%	-
	女	1,237	288 23.3%	431 34.8%	518 41.9%	-	510 41.2%	-	-

2) 従業地・通学地「不詳」を含む。

和歌山県の状況と比べ、他市区町村で働く人の割合が4割程度多くなっています。

IV 由良町の人口の将来展望

1 将来展望における調査・分析

地域の特性を生かした人口減少対策・地方創生の施策を盛り込んだ「由良町人口ビジョン」と「由良町総合戦略」の策定にあたり、町民及び町外への転出者を対象に3種類のアンケートを実施しました。

【アンケートの概要】

(1) 町民 1,600 人を対象に行ったアンケート

調査対象	20 歳以上の町民
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収
調査時期	平成 27 年 7 月
配布数	1,600 通
有効回収数	744 通
有効回収率	46.5%

(2) 15 歳～19 歳の方を対象に行ったアンケート

調査対象	15 歳～19 歳の町民
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収
調査時期	平成 27 年 7 月
配布数	100 通
有効回収数	27 通
有効回収率	27.0%

(3) 転出者を対象に行ったアンケート

調査対象	転出者
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収
調査時期	平成 27 年 7 月
配布数	100 通
有効回収数	31 通
有効回収率	31.0%

【アンケートの実施目的と分析方針】

由良町の人口の減少抑制・維持・増加に向けて、住民の定住、結婚・出産・子育てや移住者の呼び込みを促進する必要があり、「出生者を増やす」、「転出者を減らす」、「転入者を増やす」ためにはどのような取り組みを行えばよいかを、町民、若者、転出者の皆様にアンケート形式で回答いただくこととしました。

また分析方針としまして、「出生者を増やす」、「転出者を減らす」、「転入者を増やす」の促進において、要因となる「性別」、「年代」、「居住経緯」別に重点をおき分析することとしました。

性別 男性・女性

年代 20歳未満（若者）

20歳～39歳（結婚・育児世代）

40歳～59歳（子育て・働き盛り世代）

60歳以上（老後世代）

居住経緯 生まれてから、ずっと由良町に住んでいる（定住者）

由良町出身であるが、一度町外に転出し、現在は由良町に住んでいる（Uターン者）

由良町以外の出身で、町外から転入し、現在は由良町に住んでいる（Iターン者）

【アンケートの分析（一部抜粋）】

（1）町民 1,600 人を対象に行ったアンケート調査・分析

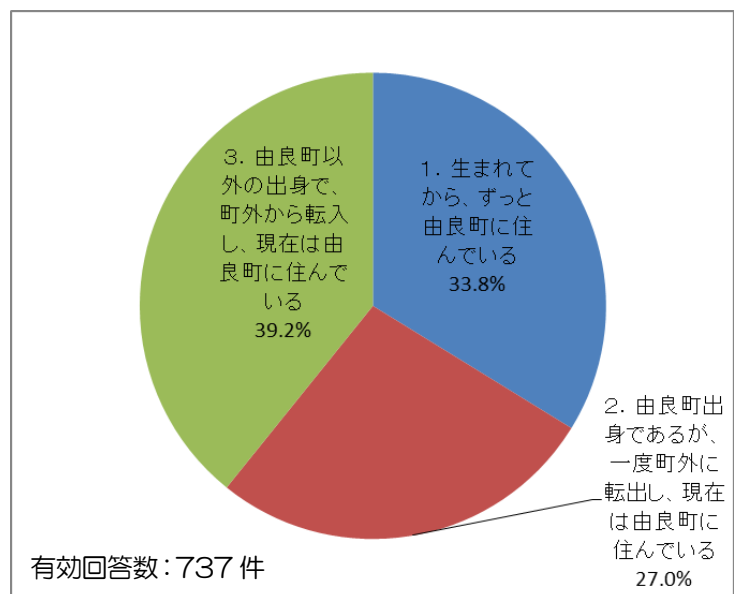
20歳以上の町民 1,600 人にお願ひし、46.5%にあたる 744 人より回答を頂きました。

①由良町住民の居住状況（経緯）

全体では「3. 由良町以外の出身で、町外から転入し、現在は由良町に住んでいる（Iターン者）」が 39.2%で最も多くなっています。

男性のみでは、「生まれてから、ずっと由良町に住んでいる（定住者）」→「由良町出身であるが、一度町外に転出し、現在は由良町に住んでいる（Uターン者）」→「Iターン者」の順でした。

「Iターン者」と回答があったうち女性は 215 人で、転入の理由は約 80%が「結婚のため」となっています。

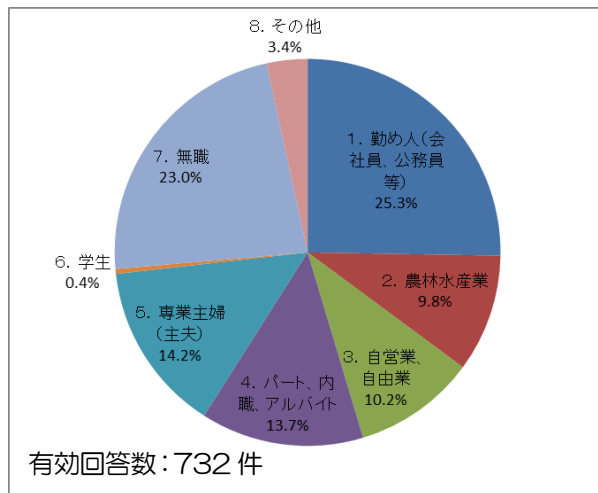


②現在の仕事と勤務先

60歳未満の男性は、「定住者」、「Uターン者」、「Iターン者」のいずれも「勤め人」が多くなっています。

「農林水産業」は、年代が上がるにつれて増え、特に「男性・定住者・60歳以上」では、37.2%を占めています。

女性は、「勤め人」の他に、「パート等」の割合が増えています。



性別・年代・居住経緯別の現在の仕事（単位：人）

性別	年代	居住経緯	回答者数	現在の仕事				
				1. 勤め人(会社員、公務員等)	4. パート、内職、アルバイト	2. 農林水産業	3. 自営業、自由業	5. 専業主婦・夫 6. 学生 7. 無職 8. その他 無回答・無効回答
男性	20~39歳	定住	16	62.5%	0.0%	6.3%	12.5%	18.8%
		Uターン	25	68.0%	0.0%	4.0%	12.0%	16.0%
		Iターン	6	50.0%	16.7%	0.0%	16.7%	16.7%
	40~59歳	定住	44	63.6%	0.0%	13.6%	11.4%	11.4%
		Uターン	42	52.4%	7.1%	7.1%	26.2%	7.1%
		Iターン	26	57.7%	0.0%	0.0%	15.4%	26.9%
60歳以上	定住	78	5.1%	5.1%	37.2%	9.0%	43.6%	
	Uターン	54	14.8%	3.7%	18.5%	25.9%	37.0%	
	Iターン	42	9.5%	4.8%	4.8%	14.3%	66.7%	
女性	20~39歳	定住	15	46.7%	26.7%	0.0%	6.7%	20.0%
		Uターン	23	52.2%	26.1%	0.0%	13.0%	8.7%
		Iターン	28	39.3%	14.3%	0.0%	0.0%	46.4%
	40~59歳	定住	36	44.4%	27.8%	2.8%	8.3%	16.7%
		Uターン	22	31.8%	31.8%	4.5%	9.1%	22.7%
		Iターン	75	25.3%	46.7%	2.7%	5.3%	20.0%
	60歳以上	定住	58	0.0%	12.1%	12.1%	1.7%	74.1%
		Uターン	32	0.0%	6.3%	0.0%	6.3%	87.5%
		Iターン	112	1.8%	10.7%	8.0%	4.5%	75.0%

勤務先（単位：人）

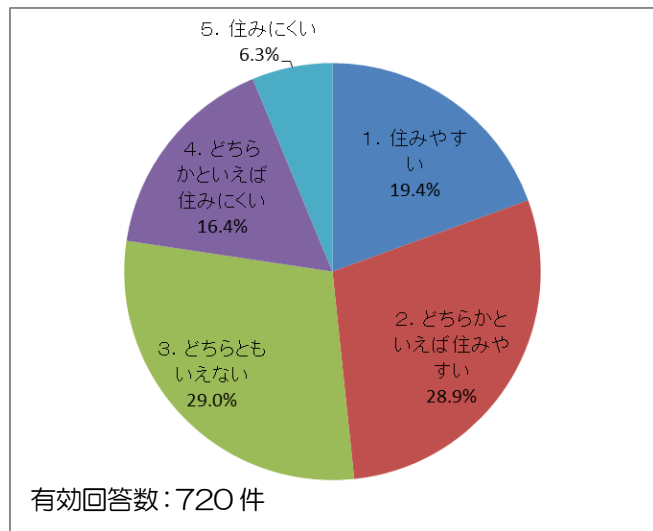
性別	年代	居住経緯	回答者数	1. 由良町	由良町以外				7. 通勤も通学もしていない、無回答・無効回答	
					合計	2. 御坊市	3. 日高町	4. 美浜町		5. その他県内、6. その他県外
男性	20~39歳	定住	10	30.0%	70.0%	20.0%	10.0%	0.0%	40.0%	0.0%
		Uターン	17	17.6%	82.4%	5.9%	0.0%	0.0%	76.5%	0.0%
		Iターン	4	50.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	40~59歳	定住	28	35.7%	64.3%	17.9%	7.1%	0.0%	39.3%	0.0%
		Uターン	25	16.0%	84.0%	28.0%	8.0%	4.0%	44.0%	0.0%
		Iターン	15	20.0%	80.0%	26.7%	0.0%	6.7%	46.7%	0.0%
60歳以上	定住	8	50.0%	25.0%	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%	25.0%	
	Uターン	10	40.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	
	Iターン	6	50.0%	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	
女性	20~39歳	定住	11	27.3%	72.7%	18.2%	0.0%	0.0%	54.5%	0.0%
		Uターン	18	16.7%	77.8%	33.3%	5.6%	0.0%	38.9%	5.6%
		Iターン	15	46.7%	53.3%	6.7%	6.7%	6.7%	33.3%	0.0%
	40~59歳	定住	26	30.8%	65.4%	30.8%	0.0%	3.8%	30.8%	3.8%
		Uターン	14	50.0%	42.9%	21.4%	0.0%	7.1%	14.3%	7.1%
		Iターン	54	42.6%	51.9%	27.8%	5.6%	1.9%	16.7%	5.6%
	60歳以上	定住	7	85.7%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		Uターン	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		Iターン	14	50.0%	42.9%	21.4%	21.4%	0.0%	0.0%	7.1%

性別また仕事の内容にかかわらず、町外で勤務する人が多くなっています。

③由良町の住みごころ

「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」を合わせても全体の半分には、至りませんでした。

性別、年代、居住経緯の違いによる印象の違いは明瞭ではありませんが、男性のほうが、若干住みやすいと思っている傾向にあります。

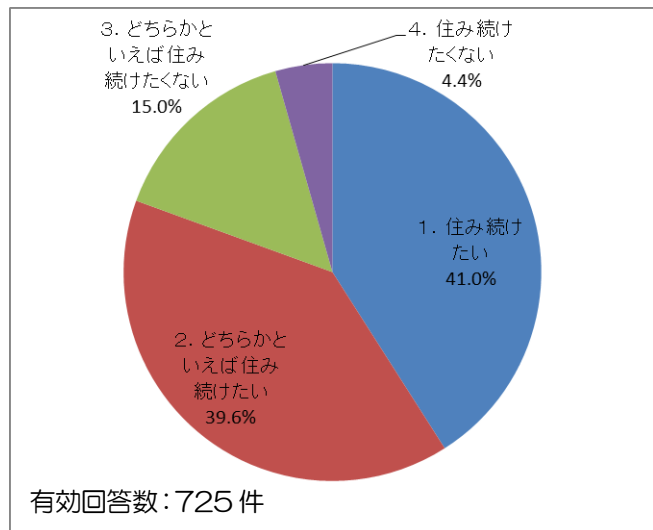


④今後の居住意思

③住みごころと比べ、4人のうち3人以上は、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」と思っています。概ね、性別、年代、居住経緯を問わず、年代が上がるにつれ「住み続けたい」が多くなっています。

住み続けたい理由は、「仕事や稼業の都合から」、「海や山の景色が良いから」の順で、居住経緯別にはIターン者は、「空気や水がきれいだから」が定住者、Uターン者より多くなっています。

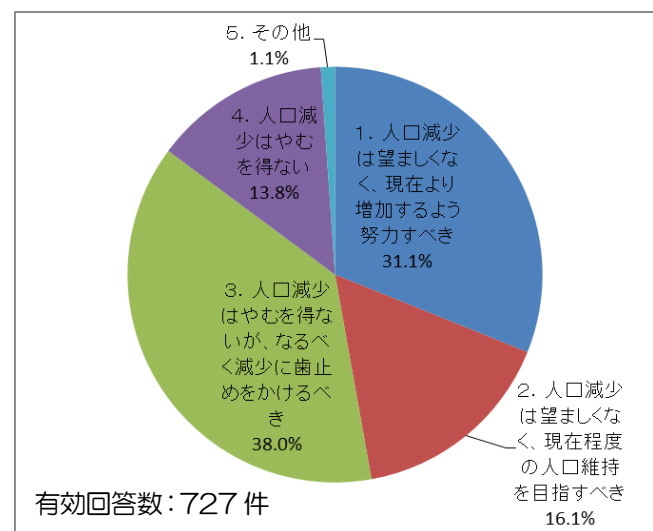
住み続けたくない理由は、「買い物などふだんの生活が不便だから」が全体では多くなっていますが、性別、年代、居住経緯により若干の違いが見受けられます。



⑤人口減少に対する考え

由良町の人口が今後とも減少傾向にあることを。概ね8割の町民が認識していました。

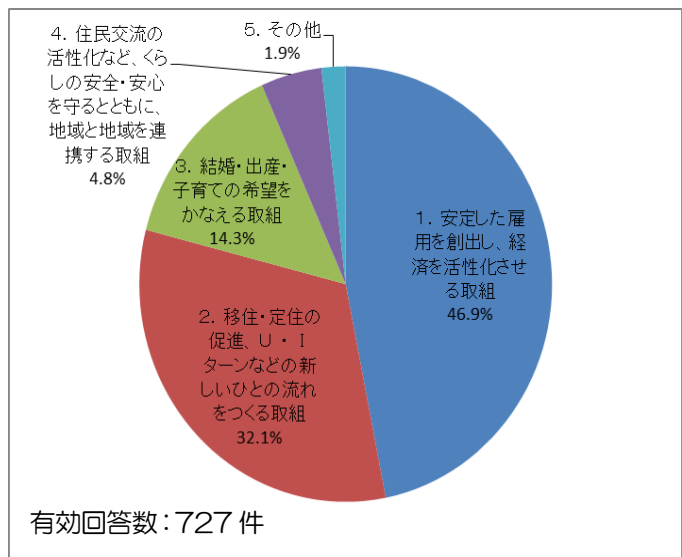
これに対し、「人口減少はやむを得ないが、なるべく減少に歯止めをかけるべき」が最も多く、「年金受給額の減額、社会保険料や医療費の増額など社会保障に係る個人の負担が増加すること」、「地域を支える担い手が不足し地域の活力が低下すること」に不安を感じています。



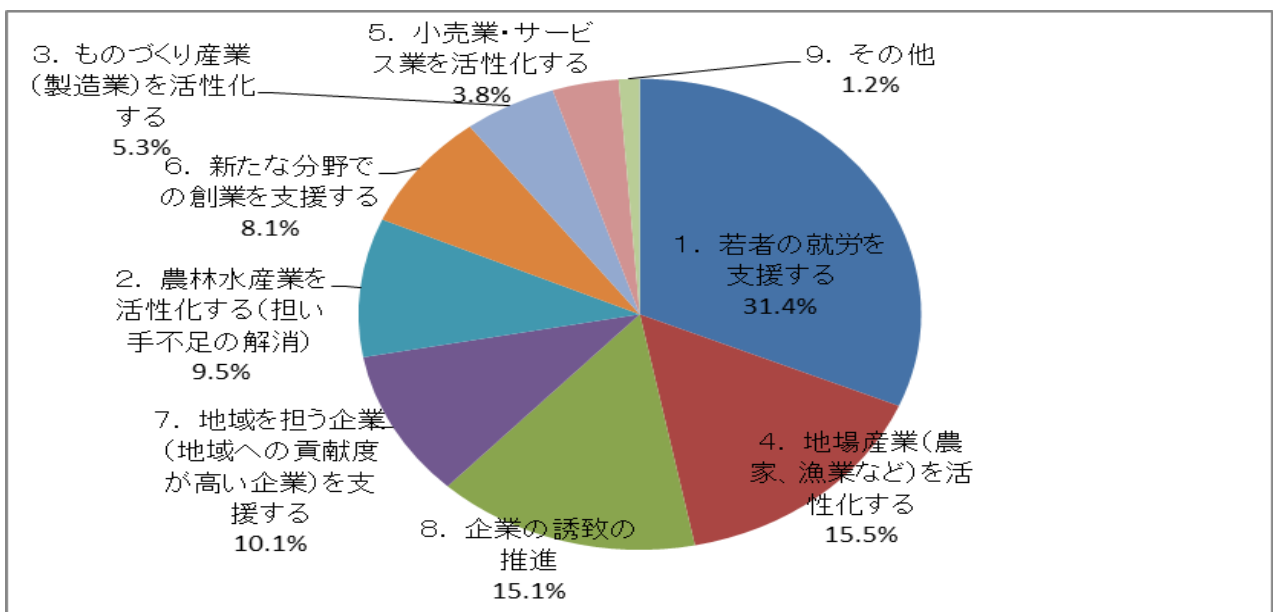
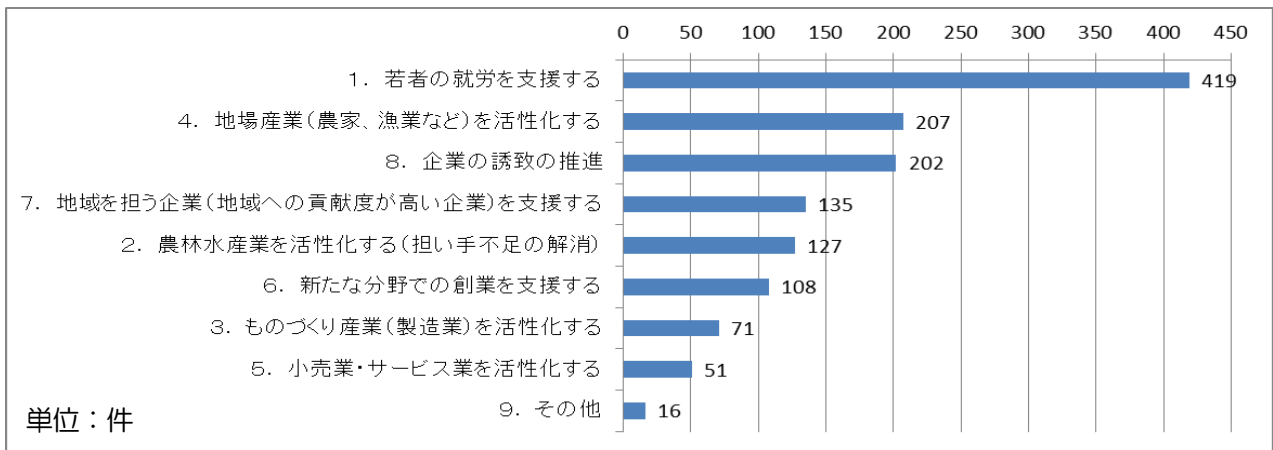
⑥由良町が今後取り組むべきこと

「安定した雇用を創出し、経済を活性化させる取組」、「移住・定住の促進、U・Iターンなどの新しいひとの流れをつくる取組」を重要と考える人が多くなっています。

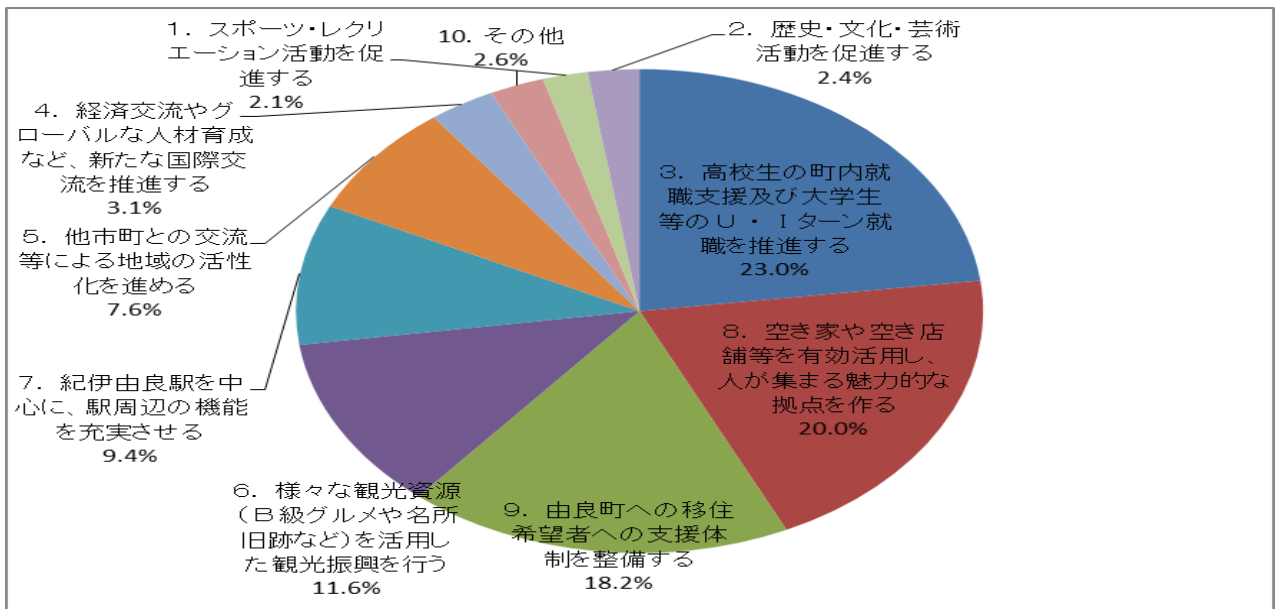
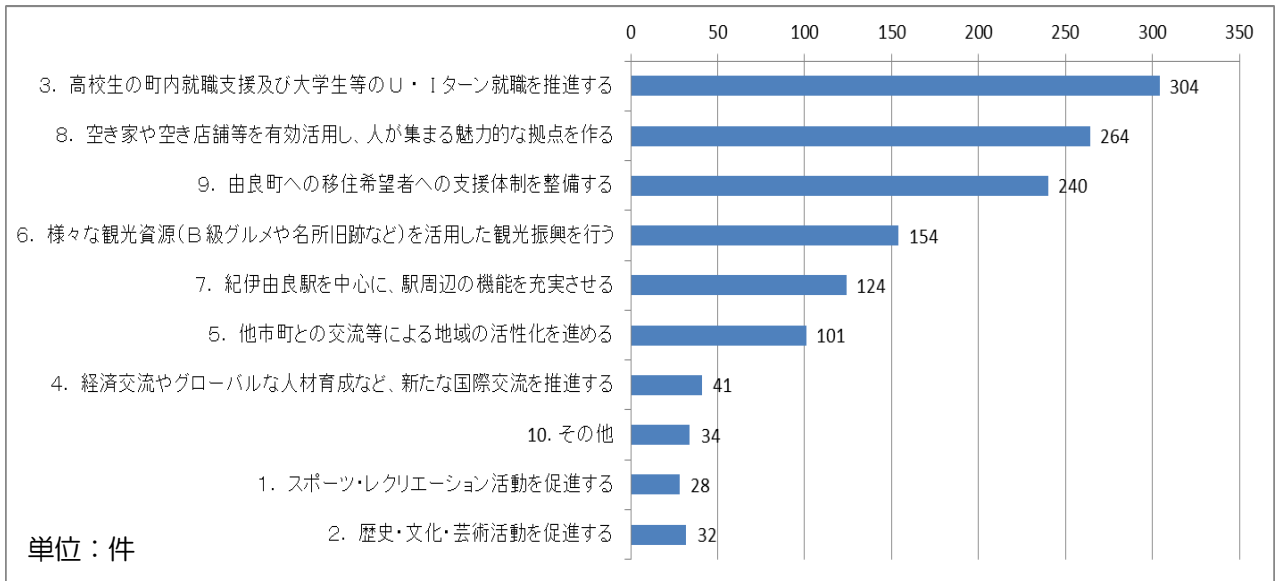
また、40歳未満では、男女ともに「結婚・出産・子育ての希望をかなえる取組」が40歳以上より占める割合が大きくなっています。



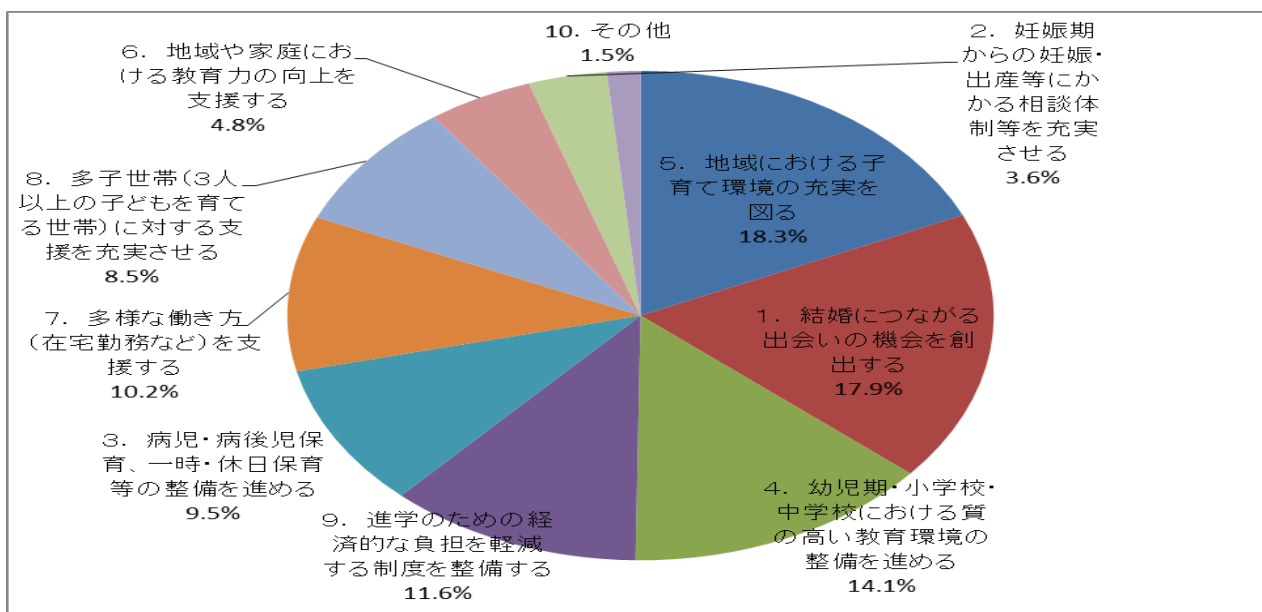
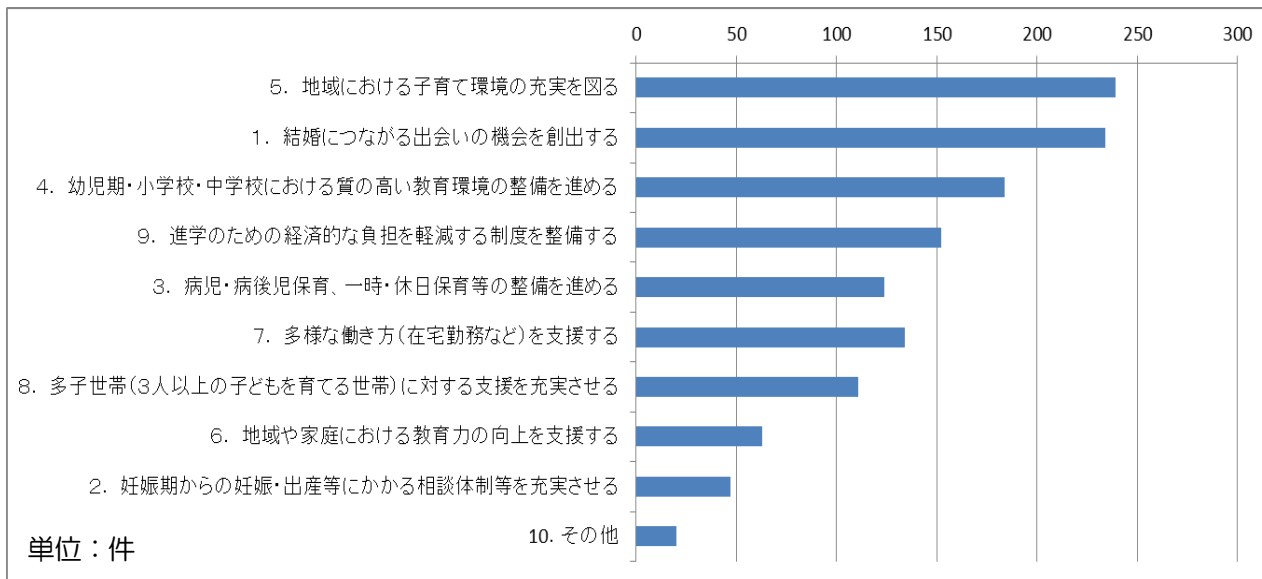
⑦安定した雇用を創出するため、町が力を入れるべきこと（回答は2つまで）



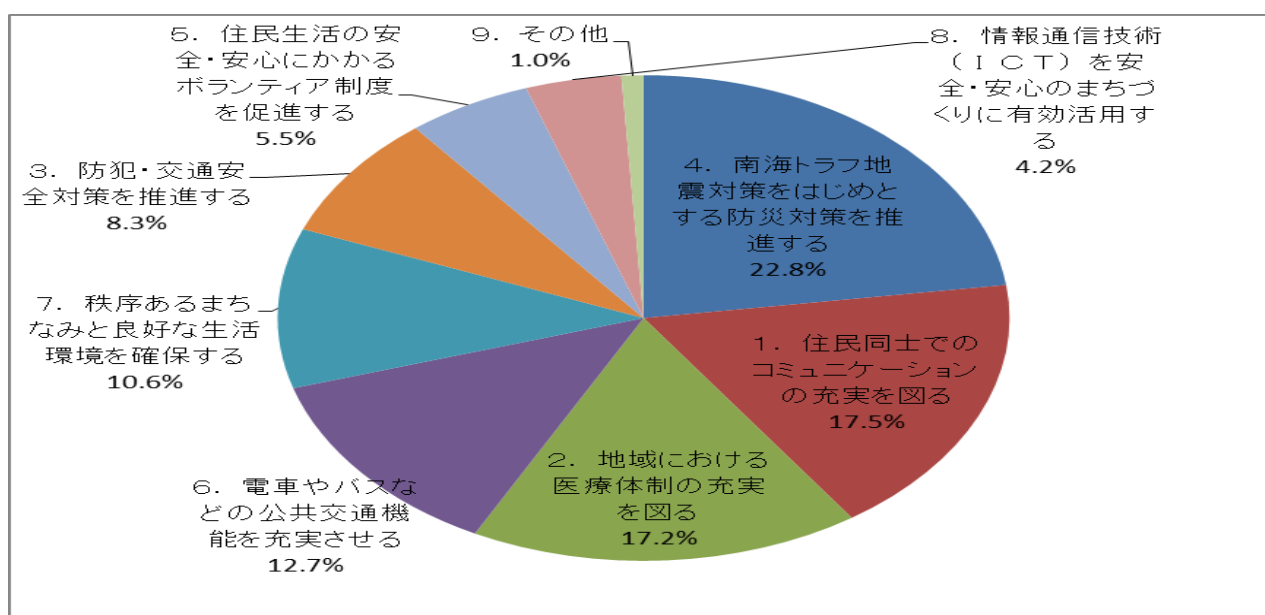
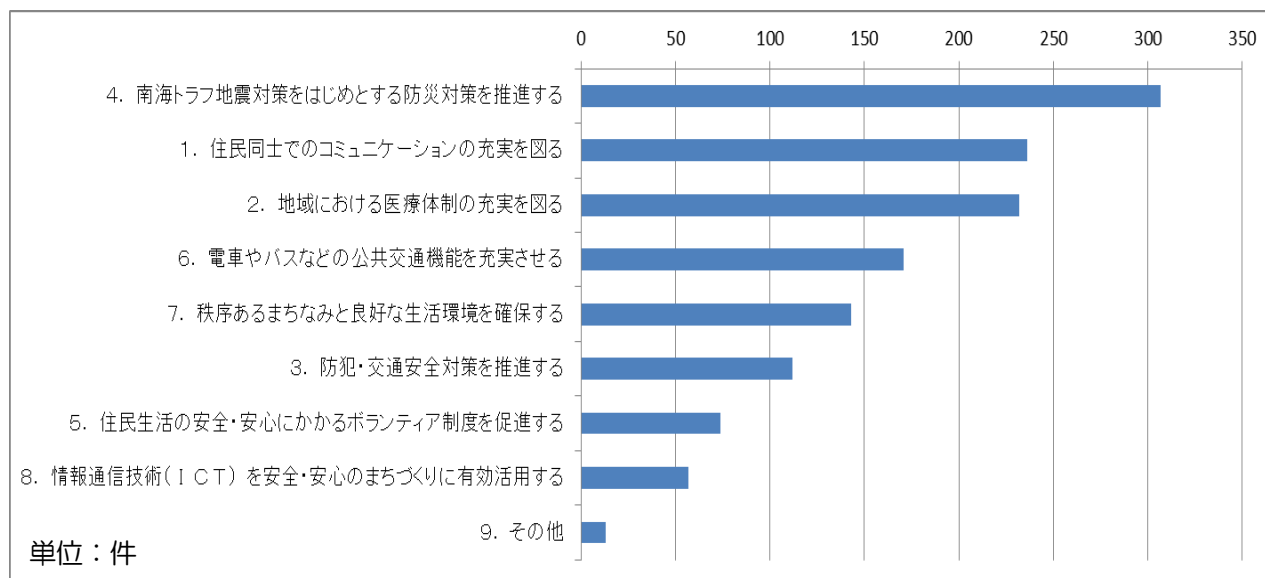
⑧町へ新しいひとの流れをつくるため、町が力を入れるべきこと（回答は2つまで）



⑨若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、町が力を入れるべきこと
 (回答は2つまで)



⑩くらしの安全・安心を守るため、町が力を入れるべきこと（回答は2つまで）



由良町が今後取り組むべきこととして、雇用創出のためには若者の就労支援の実施、新しいひとの流れをつくるためには高校生の町内就職及び大学生等のU・Iターン就職の推進、結婚・出産・子育てには地域における子育て環境の充実及び結婚につながる出会いの創出、くらしの安全・安心には南海トラフ地震対策をはじめとする防災対策の推進があげられます。

傾向としまして、雇用（特に若者）・子育て・防災対策が、由良町が今後取り組むべきこととしてあげられています。雇用を創出し、若者が町内で働き、結婚し、町内で暮らし、子育て環境を充実させ、防災対策を推進し、住民が将来にわたって安全・安心して生活を送ることができる戦略を実施する必要があります。

(2) 15歳～19歳の町民を対象に行ったアンケート調査・分析

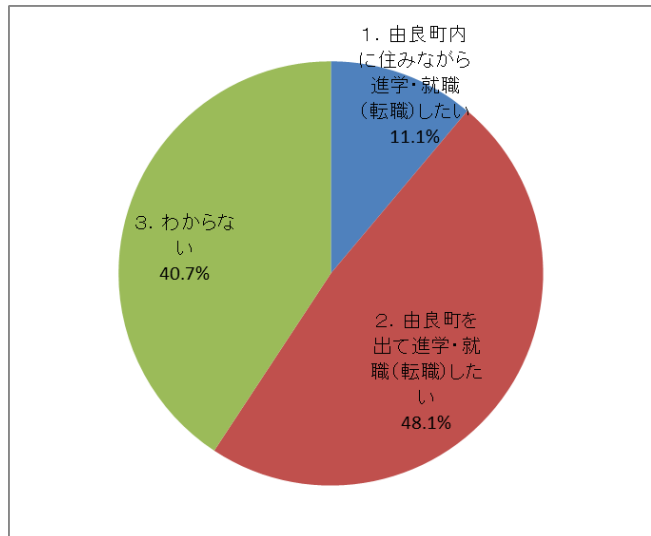
15歳～19歳の町民 100人にお願ひし、27.0%にあたる27人より回答を頂きました。

女性が21人と8割近くを占めていますが、由良町内へ通学・通勤している人はわずか3人のみで、将来も、回答者の多くが由良町を出ることを希望しています。

「1. 由良町に住みながら進学・就職（転職）したい」と回答した理由として、「家族や友人と離れたくないから」があげられています。

反対に「2. 由良町を出て進学・就職（転職）したい」と回答した回答者に対して、由良町以外に住みたい場所として「県外」が最も多く、由良町以外に住みたい理由として「由良町にいます、就職の受け入れ口が少ないから」があげられています。

ただし、「由良町に戻って暮らしたいと思いませんか」の質問に対して、「由良町以外で数年間働き、働く場所があればすぐ戻る（戻りたい）」、「一度は、由良町以外で働き、一定の時期（例えば定年）がきたら戻る（戻りたい）」と回答している回答者もいます。



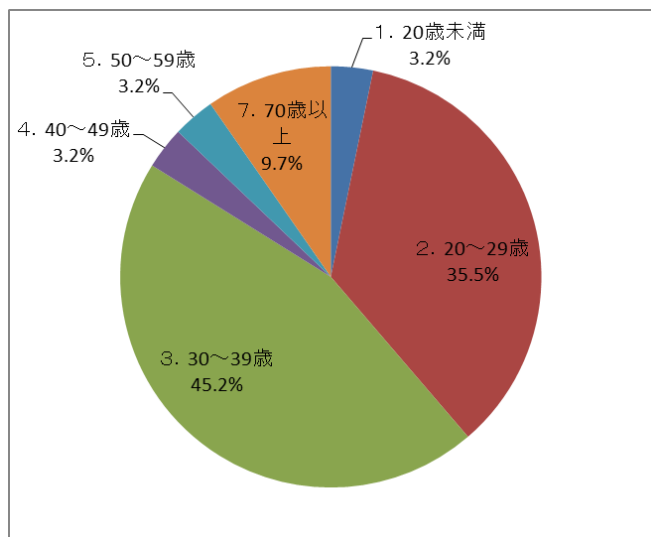
(3) 転出者を対象に行ったアンケート調査・分析

由良町より転出された 100人にお願ひし、31.0%にあたる31人より回答を頂きました。

40歳未満が8割を占めています。居住年数は、「20年以上」が最も多く、続いて「10年以上 20年未満」となっています。転出のきっかけは、男女ともに「結婚」、「就職・転職」、「進学」が多く、由良町で育った人の転出が主であると推察されます。

また転出先は、県外、県内、御坊市、日高町、美浜町の順に多くなっています。

由良町では、「近所づきあいや人間関係がよくない」、「防犯や防災について不安である」と感じ、転出先では、「買い物や通院が便利である」、「交通の便がよい」ことに満足しています。



(4) 3種アンケート調査における自由記入の分析

3種のアンケートにおいて、自由記入されたあなたが思う「由良町のよいところ」、「由良町のよくないところ」、「こんな由良町にしたい！なって欲しい！」について、文中に使用された単語に着目して整理・分析を行いました。

自由記入の件数は、「町民 1,600 人を対象に行ったアンケート 320 件」、「15 歳～19 歳の方を対象に行ったアンケート 13 件」、「転出者を対象に行ったアンケート 21 件」の合計 354 件です。

①自由記入内の単語の使用頻度と主な内容（人口増減に関わりがあると思われるもの）

単語	件数	割合	区分	要旨
自然	90	25.4%	○	豊かな自然、山や海に囲まれた自然が自慢です。
道	80	22.6%	×	高速道路とのアクセスが良くない、道が狭いことが不満です。
海	72	20.3%	○	海に囲まれた自然が自慢です。
子ども・子供	56	15.8%	△	子供を、より安心・安全に育てることができるようになればよい。子どもが多くいる町になってほしい。
山	54	15.3%	○	山に囲まれた自然が自慢です。
不便	40	11.3%	×	交通の不便さが不満です。
働	39	11.0%	×	働く場所がない、少ない。
交通	35	9.9%	×	交通の便が悪いのが不満です。
環境	33	9.3%	○	自然環境に恵まれていることが自慢です。
観光	32	9.0%	☆	観光資源には恵まれているので、もっと力をいれて欲しい。
豊	32	9.0%	○	自然が豊かであることが自慢です。
悪	30	8.5%	×	交通の便が悪いことが不満です。
景	28	7.9%	○	景色が良いことが自慢です。
駅	28	7.9%	☆	由良駅周辺を活性化、活用するとよいのではないか。
美	26	7.3%	○	美しい自然が自慢です。
職員	25	7.1%	△	職員は町内に住んで欲しい。
買い物・買物	23	6.5%	×	買い物がしづらく不満です。（交通の便が悪い・店が少ない）
バス	23	6.5%	×	バスの便がよくなく、不満です。
災	20	5.6%	△	防災の一層の充実を望みます。
子育て	20	5.6%	△	子育て支援の充実を望みます。
空き家・空家	20	5.6%	△	空き家が多く心配です。空き家を活用して欲しい。
病院	12	3.4%	×	通院のための交通に不満です。

○：満足、×：不満、△：要望、☆：提案

◇由良町民が思う「由良町のよいところ」

- ・山や海に囲まれた豊かな自然があること。

◇由良町民が思う「由良町のよくないところ」

- ・交通の便が悪く、買い物、通院が不便であること。
- ・働く場所がない、あるいは少ないこと。
- ・空き家が多いこと。

◇由良町民が思う「こんな由良町にしたい！なって欲しい！」

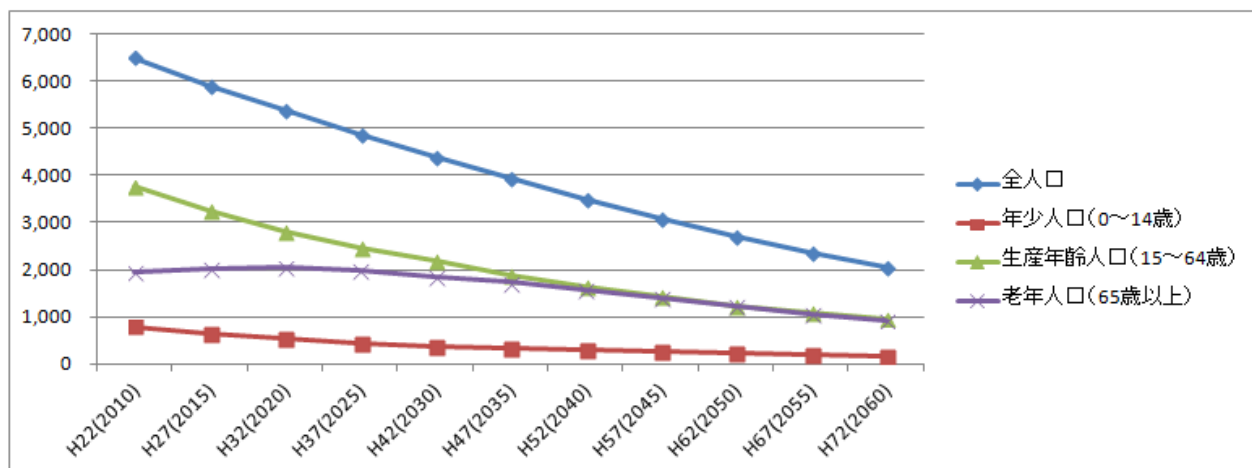
- ・自然という観光資源に恵まれているので、もっと観光に力を入れれば町の活性化が期待出来る。
- ・紀伊由良駅周辺を活性化、活用すると良い。
- ・高速道路とのアクセスが良くなって欲しい。
- ・子供を、より安心・安全に育てることができるようになればよい。子供が多くいる町になって欲しい。
- ・町の職員は町内に住んで欲しい。
- ・防災の一層の充実を望みます。

2 国が提供するデータによる将来人口の推計

(1) パターン1（社人研推計準拠）

主に平成17年（2005年）から平成22年（2010年）の人口の動向を勘案した将来人口推計で、全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定したものです。

単位：人	H22 2010	H27 2015	H32 2020	H37 2025	H42 2030	H47 2035	H52 2040	H57 2045	H62 2050	H67 2055	H72 2060
全人口	6,507	5,913	5,393	4,886	4,403	3,936	3,493	3,073	2,690	2,348	2,039
年少人口（0～14歳）	785	632	531	434	361	315	280	246	212	179	151
生産年齢人口（15～64歳）	3,758	3,247	2,817	2,473	2,182	1,895	1,626	1,420	1,241	1,098	966
老年人口（65歳以上）	1,964	2,034	2,045	1,980	1,860	1,726	1,587	1,408	1,238	1,071	922

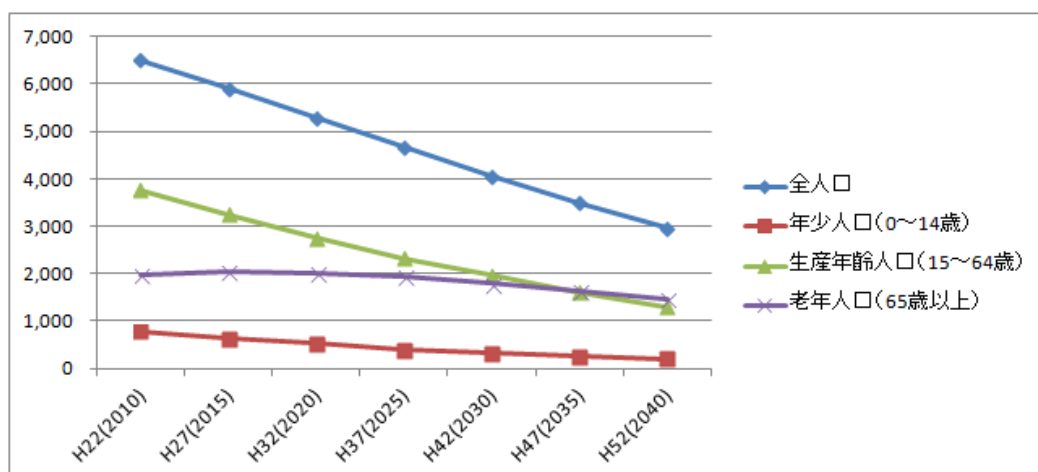


平成72年（2060年）の推計人口は、2,039人です。

(2) パターン2（民間機関（創生会議）推計準拠）

全国の総移動数が、平成22年（2010年）から平成27年（2015年）の推計値と概ね同水準で、それ以降も推移すると仮定した推計です。

単位：人	H22 2010	H27 2015	H32 2020	H37 2025	H42 2030	H47 2035	H52 2040
全人口	6,507	5,913	5,288	4,664	4,068	3,494	2,958
年少人口（0～14歳）	785	632	518	406	317	256	207
生産年齢人口（15～64歳）	3,758	3,247	2,747	2,327	1,964	1,613	1,291
老年人口（65歳以上）	1,964	2,034	2,023	1,932	1,787	1,625	1,460

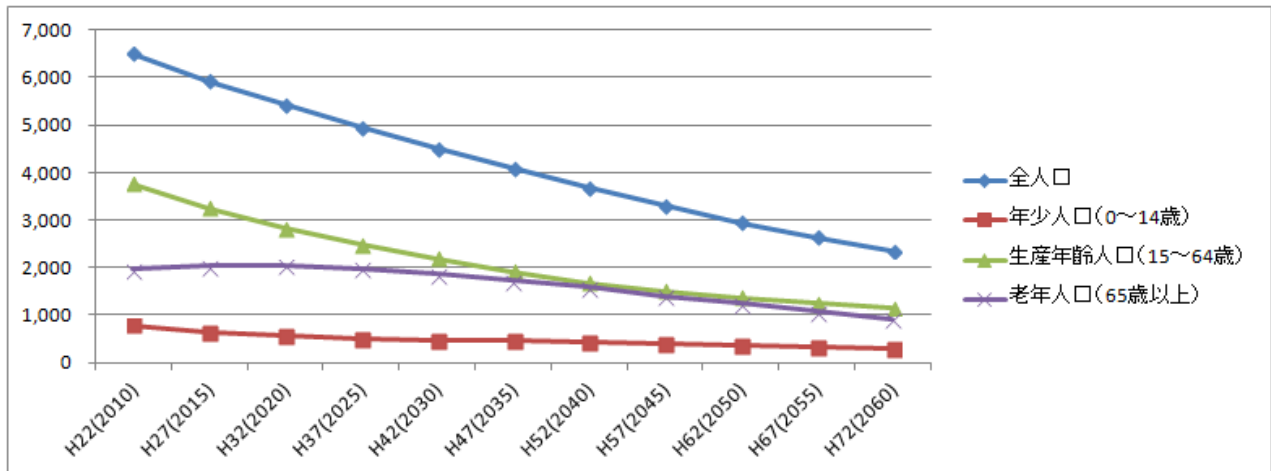


平成52年（2040年）の推計人口は、2,958人です。

(3) シミュレーション1

パターン1をベースに、合計特殊出生率が人口置換水準（人口を長期的に一体に保てる水準の2.1）まで上昇した場合のシミュレーションです。

単位：人	H22 2010	H27 2015	H32 2020	H37 2025	H42 2030	H47 2035	H52 2040	H57 2045	H62 2050	H67 2055	H72 2060
全人口	6,507	5,925	5,419	4,945	4,514	4,092	3,689	3,303	2,950	2,636	2,355
年少人口（0～14歳）	785	644	556	493	462	451	428	388	349	313	283
生産年齢人口（15～64歳）	3,758	3,247	2,817	2,473	2,192	1,915	1,673	1,508	1,363	1,252	1,150
老年人口（65歳以上）	1,964	2,034	2,045	1,980	1,860	1,726	1,587	1,408	1,238	1,071	922

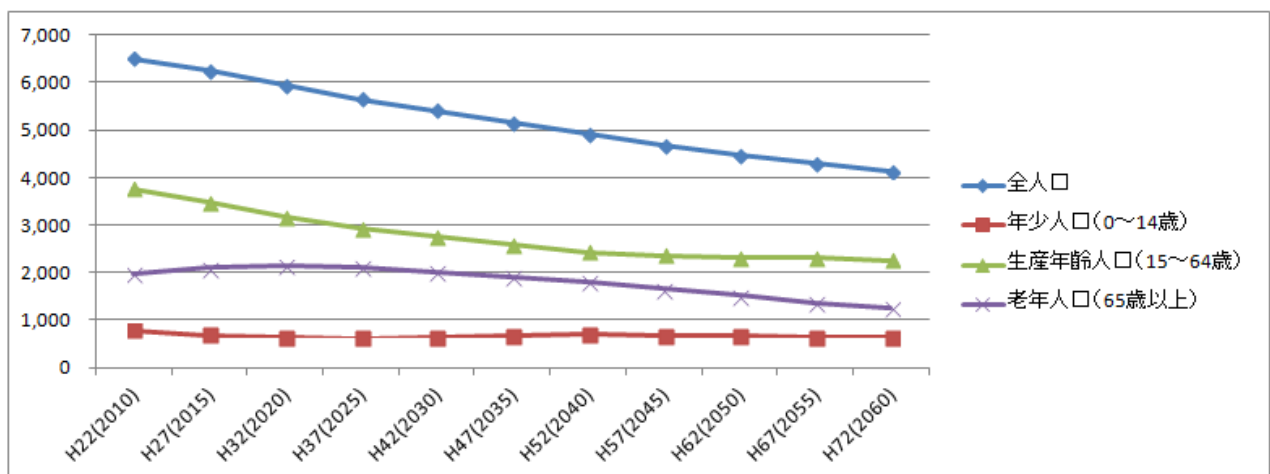


平成72年（2060年）の推計人口は、2,355人です。

(4) シミュレーション2

パターン1をベースに、合計特殊出生率が人口置換水準まで上昇し、かつ人口移動が均衡した場合（転入・転出数が同数となり、移動がゼロとなった場合）のシミュレーションです。

単位：人	H22 2010	H27 2015	H32 2020	H37 2025	H42 2030	H47 2035	H52 2040	H57 2045	H62 2050	H67 2055	H72 2060
全人口	6,507	6,252	5,946	5,656	5,411	5,165	4,925	4,691	4,477	4,295	4,141
年少人口（0～14歳）	785	686	635	615	631	671	694	679	658	634	623
生産年齢人口（15～64歳）	3,758	3,471	3,171	2,935	2,761	2,579	2,429	2,361	2,306	2,309	2,263
老年人口（65歳以上）	1,964	2,095	2,140	2,107	2,019	1,916	1,802	1,651	1,512	1,352	1,255



平成72年（2060年）の推計人口は、4,141人です。

3 人口の将来展望

(1) 将来展望の期間等

国の長期ビジョンの期間（平成 72 年（2060 年））に準じ、由良町人口ビジョンにおいても、将来展望の期間を、平成 72 年（2060 年）とします。

(2) 人口の将来を展望するに当たっての考察

①人口減少時代の到来

由良町の人口は昭和 30 年（1955 年）に 10,355 人をピークに減少が始まり、高度経済成長期の昭和 55 年（1980 年）までに 9,468 人まで回復しましたが、それ以降減少を続けており、平成 27 年（2015 年）には 6,254 人までに減少しました。

また、年齢 3 区分の人口構成比では、0～14 歳までの構成比が平成 17 年（2005 年）では 12.3%でしたが、平成 27 年には 10.5%となっており、10%を割り込むのも時間の問題と言えます。さらに転出及び死亡の社会減・自然減が転入・出生の社会増・自然増を倍近く上回っており、今後の人口回復はより厳しいものと言えます。

②今後も人口減少は続く

由良町の将来人口推計は、平成 52 年（2040 年）には約 3,500 人と推計されています（パターン 1）。現在、年少人口（0～14 歳）及び生産年齢人口（15～64 歳）の人口が減少していますが、今後、老年人口（65 歳以上）も減少していくものと推計されており、より一層、人口減少が進むものと考えられます。特に平成 52 年（2040 年）には生産年齢人口及び老年人口の構成比がほぼ同じ（総人口に対して生産年齢人口が 46%、老年人口が 45%）になる推計が出ており、平成 52 年（2040 年）以降は生産年齢人口が老年人口を下回る可能性があり、由良町の経済的・社会的な活動に大きな支障を及ぼすことが考えられます。

③人口減少問題に歯止めをかける

人口減少問題への対応は、大きく二つの可能性が考えられます。一つは転出の抑制及び転入の増加、もう一つは国の長期ビジョンが指摘する出生数の増加です。この二つの対応を同時並行的に、また相乗的に進めていくことが非常に重要であると考えられます。

そこで由良町は人口減少の原因を追究し、課題解決となる施策を展開していきます。まず転出の抑制及び転入の増加のために、地元雇用の創出や若手継承者の確保・育成に努めるとともに、由良町の豊かな自然をはじめとした観光資源を有効活用し、観光客や移住・定住の受け入れ体制の整備を行い、新しいひとの流れを作ります。また出生数の増加については、出会い・結婚の支援、妊娠・出産の支援等を実施し、現在の町民にも、こらからの転入者にも住みやすい・住み続けたい町と感ぜられるような施策を実施し、安心できるまちづくりを取り組んでいきます。

(3) 将来展望の結果

平成 23 年度(2011 年度)に策定した第 4 次由良町総合計画後期計画において掲げた目標人口は、6,500 人を設定していました。しかし、平成 27 年 7 月末現在で由良町の人口は、6,238 人となっています。

目標とする数値は、由良町民の多くがアンケートで回答した「人口減少はやむを得ないが、なるべく減少に歯止めをかけるべき」に比べると「実現の可能性」があることが肝要です。

将来の人口推計における4種の仮定のうち、「パターン1：平成72年（2060年）の推計人口2,039人」及び「パターン2：平成52年（2040年）の推計人口2,958人」は、現状の延長での推測であり、「なるべく減少に歯止めをかける」に該当するものではありません。

また、パターン1をベースにした「シミュレーション1：平成72年（2060年）の推計人口2,355人」も、現在の半分以上と見込むもので、町民の希望に沿った目標とは言い難いと思われます。

「シミュレーション2：平成72年（2060年）の推計人口4,141人」は、パターン1をベースに、合計特殊出生率・平成27年（2015年）1.56を、平成37年（2025年）より1.80、平成42年（2030年）より2.10と、段階的に人口置換水準まで引き上げ、かつ人口移動が均衡した場合（転入・転出数が同数、すなわち移動による増減がゼロ）としたものです。

本人口推計で試算された4,141人は、由良町民が望み、実現の可能性がある数値であると判定し、由良町人口ビジョンにおいては、由良町総合戦略により、その実現に向けて効果的な施策を企画立案及び実施していくことで、平成72年（2060年）に4,700人を目標人口として設定することとします。

由良町人口ビジョン

平成 27 年 10 月発行

由良町まち・ひと・しごと創生本部

【発行】由良町

〒649-1111

和歌山県日高郡由良町里 1220-1

TEL : 0738-65-0200

FAX : 0738-65-0282

【編集】由良町総務政策課